第19回長野工業高等専門学校参与会議事概要

日　時　　令和5年2月14日（火）　10:00～12:00

場　所　　長野工業高等専門学校　第一会議室

出席者

参与：天野良彦参与(会長)、丸山陽一参与、倉島浩参与、池田明参与、渡辺雅義参与、平林靖久参与、小河原敏男参与（副会長)、高橋健也参与、柳見沢宏参与

本校：江﨑尚和(校長)、濵口直樹（副校長(教務主事))、児玉英樹(副校長(学生主事))、松下英次(副校長(寮務主事))、渡辺誠一(副校長(専攻科長))、古川万寿夫(副校長(総務主事))/第三者評価対応委員会委員長)、小野伸幸(副校長(研究主事)、亀井耕治(副校長(事務部長))、春日貴志(工学科情報エレクトロニクス系長)、中山英俊(工学科機械ロボティクス系長)、酒井美月(工学科都市デザイン系長／男女共同参画推進室長)、冨永和元(工学科リベラルアーツ教員院長)、板屋智之(学生相談室長)

＜陪席＞楡井雅巳(教育改善委員会委員長)、鈴木宏（入試広報室長)、森田智士(総務課長)、中嶋広隆(学生課長)、三尾敦(技術支援部技術長)、金井隆英(総務課課長補佐(総務担当))、伊藤奈津奈(総務課総務係長)

１．開会　総務課長

２．会長・副会長紹介　総務課長

３．自己紹介（各参与・長野高専出席者）

４．校長あいさつ

本参与会は本校の教育研究、学校運営全般に関わることについて、外部の有識者の意見を本校の改革・改善につなげていくことを目的としている。

今年度の参与会は本校で作成した自己点検・評価について意見をいただきたい。

今年度、このようなテーマを選んだ理由は、学校教育法で義務づけられている機関別認証評価において指摘があったためである。

自己点検・評価の内容は、「教育の質保証」「教育環境」「学生支援」「教育カリキュラム」「入試」「研究」「地域貢献」「学校運営」と非常に幅広い内容になっている。議論が絞りにくいところもあるが、評価項目、評価の結果も含めて、忌憚のない意見をいただきたい。

５．配付資料確認

６．議事

天野会長から、これまでの参与会と違い、外部評価について、各参与の方々から忌憚のない意見等を伺いたいとのあいさつがあった。

以下、参与会設置要項第７条第１項の規定により天野会長が議長となり、議事が進行された。

（１）自己点検・評価表の評価方法

古川副校長から、「資料№２　自己点検・評価の方法」に基づき、自己点検・評価の方法について説明が行われた。

（２）自己点検・評価の説明

引き続き、配付資料に基づき、長野高専担当者から自己点検・評価の説明があった。その後、大項目毎に質疑応答が行われた。

<u>大項目１：教育の内容質保証（発表者：総務主事）</u>

古川副校長：ディスプレーの表示になりますけれども、大項目１番は教育の内部質保証ということで、番号１、番号２、それから次のスライドになりますが、番号３と分かれています。番号１は点検改善システムの整備・実施がされていて、結果が公表されているかという観点なんですが、それが自己評価は５点になっております。それから、番号２、これは学校の構成員とか外部の方から意見を聞いて学校の改善に生かしているかという項目ですが、これは自己評価が３になります。それから次のスライドですが、番号３、３つのポリシーとなっています。これは入学者募集の方針、それからカリキュラムの方針、それから卒業認定の方針、方針とポリシーと書いてありますが、３つのポリシーが設定されていて、公表して見直しを行っているかということについては、これは自己評価５といたしております。この３つの中から、今日は、最初の番号１番のところ、点検改善システムについて中央のスクリーンで詳しく御説明させていただきます。中央のスクリーンを御覧ください。番号の１番は自己点検・評価になりますが、点検改善システムがルール化されて整備されていて、定期的に実施していて、結果をちゃんと公表しているかという項目になりますが、これは自己評価５といたしておりまして、点検改善システムはこの６項を実施しております。下から御説明しますが、６番の学生への支援体制点検システムということで、これは授業アンケートですとか、満足度調査をして改善に生かして

いて、そういったものを使いながら５番の授業改善システムということで、こちらのオレンジ色のところ、ここでＰＤＣＡサイクルを回して各教員が授業改善を行っています。そして、４番目のところ、これは各委員会の重点項目の点検システムということで、こちらの青いところになります。各委員会で年度計画とか目標を立てまして、それを実際の教育活動を行ってＰＤＣＡサイクルを回しているという点検システムになります。それから、２番、３番ですけれども、これは年度計画ですとか、３つの方針、これは先ほどの３ポリシーといっているものですが、これらを執行会議でプランニングをした上で、各委員会でそれを実施して、その結果を教育改善委員会に戻してチェックをして、また執行会議に戻すというＰＤＣＡサイクルで回しています。それから一番上、これは一番外枠の上位の点検システムになりますが、自己点検・評価項目による点検システムということで、これは本日実施しているものですが、執行会議でプランニングをしまして、それを学校全体で実行してみてそれを自己評価した上で、参与会で外部評価をした上で、また学校へフィードバックいただいて、学校で執行会議でまたそれを学校の中へフィードバックしていく、こういったような点検システムをつくって実施しております。以上が大項目の１番になります。何か御質問がありましたらお願いいたします。

天野参与：ありませんでしょうか。

池田参与：定期的というのは、どのくらいの定期なんですか。これ、年度計画が参与会の場合は年に１回なのかなと。その他の定期的にというのは、どんな周期でおやりになられて、１年に１回だとＰＤＣＡは回せないのではないでしょうか。

古川副校長：基本的に、５番と６番、ここは授業改善の部分ですので、これは年に２回ほど授業アンケートを行っております。それで回しています。それ以上のところ、４、３、２、１のところは、これは１年に１回になっております。

天野参与：よろしいですか。

池田参与：１年に１回だとＰＤＰＤになっちゃうんじゃないかな。だから、年度計画を立てて１年に１回見直して次の年度計画になっちゃうんですよね。というふうで、ＣＡは回らないんじゃないでしょうかということです。

古川副校長：分かりました。途中で中間評価、いろいろなことを行ったほうがよろしいという意味合いですね。

池田参与：そのほうがいいんじゃないでしょうか。

古川副校長：ありがとうございます。

平林参与：今のお話の延長ですけれども、これは階層がみんな違うものだから、最後のところのＰＤＣＡは多分１回でいいと思うんですけれども、参与会送りは１回しかないわけだから、でも、その下の階層は回数を増やさないと次に回らないと思います。

古川副校長：２番より下のところですね。

平林参与：それともう一点、前提ですけれども、十二分にというのと十分にってどう違うんですか。５と４。

古川副校長：５と４の違いですね。

平林参与：十二分と十分と、それで実施しているが３ですよね。５の評価は十二分にという位置づけなんですよね。

古川副校長：５はそうですね。十二分ですね。

平林参与：そこの意味合いを教えてください。十二分に実施している、十分に実施している、実施している、５、４、３と、これ、非常に曖昧な言い方なものですから、評価のしようがない。もっと定量的な評価が必要じゃないかなと思う。そこを御説明いただきたい。

古川副校長：分かりました。評価というのをどうやってつけるかというので議論がいろいろあって、なかなか難しかったんですけれども、十二分というのは一応、点検を実施しているかどうかという観点でつけました。きちんとこういうシステムが出来上がっていて、きちんと実施しているであれば、十二分ということで考えました。十分というのは、十分、十二分と同じなんですけれども、なかなか難しいところなんですけれども、また来年度、その辺よく検討していきたいと思います。

柳見沢参与：お願いします。この後、この質疑応答、意見交換というのを大項目ごとにこういう形でやっていくというようなことで進行されるんですか。

古川副校長：はい。そうです。大項目ごとに３分程度質問になります。

柳見沢参与：分かりました。全体を通して、評価３というのが８か所あるんですよ。ここの教育の内部質の保証が、アンケートが１５％ですよね。このことが非常に気になるんですよ。今回の結果ですから、これをどうするかということになるかと思うんですが、１５％というのはあまりにも回答率としては低過ぎて、評価の対象にならないんじゃないかとも思うんですが、ここら辺はどういう原因なり、考えられることがあるのか、現時点で教えてもらいたいですね。

古川副校長：番号の２番のところで、ここに回収率１５％とあるんですが、これは実は卒業生、修了生に対して郵送で送って、それで回答をお願いしたものなんですが、そのため、郵送で送っているので回答率が低かったということになります。うちの在学生であれば、アンケートを取って何日までに出してねということを言えるんですが、なかなか卒業生ですので、それができなくて１５％という数字になっています。

柳見沢参与：失礼しました。これは学生の評価ということでいいんです？教員ではないんですか。

古川副校長：教員ではないです。卒業生と修了生になっています。これ、今ここにあげてあるものですね。

柳見沢参与：そうすると、ここに示された自己評価・点検というのは学生の評価ということで判断してよろしいですか。

古川副校長：番号の２番ですよね。これは学生も含んでいます。学生と、それから卒業生とか、それから学校の外部の方、そういった意見を収集してということで、取りあえず今ここには卒業生と修了生しか書いていないんですけれども、あと企業も書いておりますけれども、そのほか在校生に対しては満足度調査などをしております。

柳見沢参与：分かりました。そうすると、点検項目の１と２、これも全て学生の評価ということなんでしょうか。要するに、自己評価しているのは、学生の評価に対して、今評価を求められているのか、それとも教員の方の評価で判断している資料なのか。先ほど外部評価ということもあったんですけれども、誰を対象にして評価し、まとめてきたのかということが分からないものですから。

古川副校長：学校の運営、教育の運営の仕方に対する評価になりますので、こちらの表にまとめてある評価になりますね。

柳見沢参与：そうすると、その運営というものが、学生がそれを把握しながら評価するということが可能なのか。私は、これ、高専に勤務される方の、教員の質を見るための評価なんじゃないかと思ったんですよ。そうしないと、この内容から学生がこれを見て評価してくださいと出すのは、どういうアンケートを取られたか分からないんですが、そこが見えなかったものですから。

古川副校長：これは学校全体の運営で、教員の質もありますし、それから学校の施設ですとか学校の運営方針、運営の仕方とか、それから我々の授業の仕方とか、その辺の評価になります。

柳見沢参与：ですから、何か評価するときの、誰を対象に評価するかというと、それは項目をやはりきちっとそれに対応するようなものを求めないと、なかなか学生と教員との立場で、同じアンケート基準、または評価基準で評価するというのは実情を見ることは難しいんじゃないかと思うんですけれども。これ、高専機構からこういう形でやってくれという指示で出ている内容というか、形式なんですか。

古川副校長：そうです。最初の点検項目、高専機構から来ている、高専認証評価の点検の内容がありまして、それを基にしてつくられた点検項目になります。

柳見沢参与：それで、学生も同じものを評価しているとやってきているということなんですか。

古川副校長：ここには基本的に学生の評価はなくて、学生が学校でどんなふうに満足しているとか、学生が授業に対してどういうふうに思っているとかということを吸い上げて、我々がそれを授業の改善に生かしているかどうかという観点の評価です。

柳見沢参与：そうすると、学生にやった評価というのはまた別のものがあって、その回答率が１５％だという判断ですか。

古川副校長：この１５％は学生ではなく卒業生、修了生に対して、学校でやってきた教育、教わってきたことが社会で生かされているかとか、社会に出て自分が高専を卒業してどんなふうに学校で学んだことが生かされているかとか、そういったようなことを聞いたものになります。番号２番のここに書いてあるものは。

柳見沢参与：学生さんにどういう評価というか、どういうものを求めたかということが分からないので何とも言えないんですけれども、いずれにしろ１５％というのは低過ぎるなという感想を持ったものですから。ありがとうございました。

古川副校長：ありがとうございました。

天野参与：ありがとうございます。内部質保証は非常に文科省でも今求められているもので、一番は多分学生がＤＰ・ＣＰ等に合うように、一定レベルが確保されているかどうかというところが多分内部質保証の一番大事なところで、そのためにいろいろな項目があるのかなと思っています。多分学びの履歴書みたいなものがあって、例えば、就職するときにそれぞれの人がそれを持って企業へ自分の学びはこうであったということを出せるというようなことを文科省で多分今出せという話になってきていて、私どものところも今それに対応しているんですが、なかなかこれが難しい問題ではあるかなと思います。この大項目１のところではよろしいでしょうか。

項目が幾つかありますので、項目を進ませていただいて、また全体のところで議論をさせていただければと思います。それでは、次の項目をよろしいでしょうか。

大項目２：組織及び教員・教育支援者（発表者：教務主事）

濵口副校長：次の項目、大項目２につきまして、教務主事、濵口から御報告させていただきます。まず、小項目でいうと４から７までになります。こちらを説明させていただきます。まず、４ですが、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能しているかという項目になります。こちらについては評価４ということで点検をさせていただいております。５番目の教員等の配置になります。準学士課程、専攻科課程において、一般及び専門の教員並びに教育支援者が適切に配置されているかというところにつきましては評価４とさせていただいております。こちらは後ほど大きな画面で説明させていただきます。６番目、教員の評価についてです。教員の採用や承認に関する基準があり、適切な運用がされており、教員の教育・研究活動に対して定期的な評価が行われているかという項目になります。こちらについては自己評価を４とさせていただいております。７番目がＦＤ活動、ＦＤ・ＳＤ活動が実施され、改善等に結びついているかということで、こちらにつきましては自己評価を３とさせていただいております。この３の理由としましては、支援等の具体的な評価手法、こちらが定まっていないという自己評価ということで、教育及びその支援等の具体的評価手法について今後検討していくという改善点をまず挙げさせていただいております。では、５番に戻りまして、教員等の配置となります。大きな画面で、こちらには教員の配置ということで教職員数を挙げさせていただいております。こちらは準学士課程において、本科のほうですが、一般及び専門の教員を各科目担当者として配置、必要に応じて技術支援部より技術職員を配置しているということになります。技術支援部、一番下の合計の上にございますが、１５名ということになっております。括弧内は女性数ということになっておりまして、こちらも御覧いただければと思います。専攻科課程においては、生産環境システム専攻に機械工学、電気電子工学、土木工学を専門とする教員、電気情報システム専攻には電気電子工学を専門とする教員を配置しているという形になっております。こちらの自己評価については４ということで、今後も、令和４年度に学科再編を行っております。このカリキュラムに従い、学科再編による変更点を確認しながら今後も適切に配置していくという予定としております。大項目

２の説明については以上となります。御質問等ありましたらよろしくお願いいたします。

天野参与：いかがでしょうか。私から１点、この教員の組織というのは、あくまでもこの課程に張りついていて、専攻科というのはまた別というか兼任という形で考えたらよろしいでしょうか。

濵口副校長：そうですね。専攻科にも適切に兼任の形になります。

天野参与：分かりました。何か皆さんからございますでしょうか。もう一点、ＦＤのところが３ということで、このＦＤが、私どものところもなかなか難しい問題だなと思っていまして、ＦＤはもちろんいろいろなことをやっているんですけれども、その効果をどうはかるかというのは非常に難しいところだなと私も思っております。そこら辺の評価手法というのは非常に効率的なものがあるかどうかというのは難しいけれども、何らかのものはしなければいけないというのも確かかなと私も思っておりますけれども、ぜひ御検討をよろしくお願いします。

濵口副校長：ありがとうございます。

天野参与：ほかはよろしいでしょうか。そうしましたら、また全体でありましたらお願いします。では、３番目の項目に移らせていただきます。

大項目３：学習環境及び学生支援（発表者：総務主事、教務主事、学生主事）

古川副校長：では、大項目３、学習環境及び学生支援ということで御説明いたしますが、この大項目３は番号がたくさんありまして、３名の担当者からそれぞれ分割させて御説明させていただきます。まず、私は番号８、９、１０についてになります。番号８は、施設とか設備の整備・活用がきちんとした安全とか衛生管理の下行われているかどうかということで、これは自己評価４。それから、番号９、これは、ＩＣＴ環境が適切な情報セキュリティー管理の下で整備されて活用されているかということで、これは自己評価４。番号１０は、図書類の収集とか整備・活用、これがきちんとなされているかということで、自己評価４とさせていただきました。この中で番号９のＩＣＴ環境とか情報セキュリティーのところについて中央のスクリーンで説明させていただきます。まず、ＩＣＴ環境について、学生に対する満足度のアンケート調査を令和３年度に行っております。その中の設問の２番に、本校のＩＣＴ環境について満足していますかという設問がありまして、それに対する回答はこちらです。やや満足と満足、これを合計すると約８０％の学生が回答しておりまして、ほぼ満足される環境

になっているんだなと考えています。ただ、一方で、不満、やや不満を合計すると約２０％になりますが、不満もないわけではないと。その設問の自由記述のところに挙げていただいたのがこれらなんですが、ネットワーク環境の通信が不安定とか、それから、学校の無線ＬＡＮにタブレット端末をつなぎたいとかいろいろな要望があります。それから、教室のプロジェクターが暗いとか、そういったものがありますが、ネットワーク環境に関しては、通信速度に関しては今年度夏に整備いたしました。それから、教室のプロジェクターについては、また予算がつき次第、順次明るいものに変えていっております。それから、セキュリティーですけれども、パスワードポリシーの遵守とか多要素認証の実施とかウイルス対策ソフトなどを使ってセキュリティーを強化しております。それから、ネットワーク接続は申請許可制、それからこういったセキュアが、これはＩＥＥＥ８０２．１Ｘ認証というセキュアなネットワーク環境も使っております。それから、学校の集合してやるパソコンを整備して、絶えず新しいものに公費で更新していくというのはなかなか難しいところがありまして、令和３年度からＢＹＯＤのＰＣ、学生にノートパソコンを購入していただいて、その学生所有のＰＣで授業を受けていただくということを始めました。これによって費用負担がかかるんですけれども、新しい情報環境を使いながら学生が授業を受けていくということができるようになってきています。以上で終わります。何か御質問ありましたらよろしくお願いいたします。

天野参与：いかがでしょうか。

池田参与:学習に使うためのパソコンだとかそういうのを各個人が使えるんですけれども、それは学ぶために使うのと、個人で使う場合がありますよね。個人で使うものもどの程度個人に守るのか。そこにあるデータというのはどなたかチェックして、好ましくない情報なんかがあったらまずいよ、というのも言うのかどうか。その辺に、学生が学ぶために使う、そうでない別な目的で使う、ここを皆さんはどういうふうに監視というのか見るのか、そこで何かが起きたらその情報ってどんな扱いをされるのか、その辺をお伺いしたい。

古川副校長：例えば、学生が自分のスマホでＳＮＳを使っていたりとか、スマホでいろいろなウェブを見たり、いろいろなところに情報発信したいという部分の話になりますかね。

池田参与：例えば未成年の学生がお酒を飲んでいる写真が出たとしたらどうされます？

古川副校長：その場合は、学校で把握した場合には、本人に事情聴取して、その内容によって学校の……。

池田参与：ですから、把握するには周期的に監視されるということですか。

古川副校長：監視はしていません。学校として……。

池田参与：しないと、何が入っていてもいいんですね。

古川副校長：よくはないんですが。

池田参与：とんでもないものが載っていても全然見ないわけだから、使うことができるわけですよね。

古川副校長：学校としてのウェブとかそこには一切学生は情報を載せられません。

池田参与：そういう記憶する部分がないんですか。例えば、学生が実験した実験データを入れておくところがありますよと。これを別の目的で使って、どなたも見られないとすると、不正アクセスからいくと、何に使われているか分からないですよね。大丈夫ですか。

古川副校長：学校としては、そういったものはウェブに置くようなことはしていなくて、基本的にグーグルドライブとか、マイクロソフトのワンドライブのようなものですが、それを学生が使っている形ですね。

池田参与：個人のメモリに勝手に入れなさいよという形になっているということですか。

古川副校長：そうです。

池田参与：分かりました。

天野参与：ほか、いかがでしょうか。情報セキュリティーの問題は非常に大学も大きくて、個人管理の問題と公的なもの、しかも研究データとかいろいろな公的なものをどうやって保存していくかというのは、今大変な問題になっていまして。

池田参与：高いものは難しいですよね。

天野参与：そうですね。非常にこれは悩ましい問題だと思います。ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。なければ次の項目に移らせていただきます。

濵口副校長：それでは、１１から１３番まで、大項目３、学習環境及び学生支援の部分の前半になりますが、再び教務主事、濵口から御説明させていただきます。１１番につきましては、新入生、留学生、編入生に対して、履修や施設、設備等に関するガイダンスを実施しているかという点検項目となります。こちらにつきましては、それぞれ実施しているという自己評価４となっております。様々な変更点を含めて、適切にガ

イダンスの実施を継続していくということにしております。１２番、後ほど説明させていただきますが、学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているかという項目になります。１３番は、特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等が行われているかという点検項目となります。こちらにつきましては、入学前の調査、保健調査票による保護者からの申出等をはじめとして、それぞれ特別な支援の確認、必要な学生の確認を行って進めております。自己評価としては４とさせていただいております。今後も学生一人一人の状況に応じて支援を行っていくということで継続をしていきたいと考えております。それでは、１２番に戻りまして、学習環境及び学習支援のところの学生の自主的学習を進める上での相談・助言等の体制になります。こちらにつきましては、準学士課程においては学級担任制により学生の相談、助言を行っています。学級担任制をしいておりますが、非常に学生に近い立場ということで、学級担任業務ガイドというものをつくりまして、こちらを参考資料に学生に対して担任を中心に学年団というまとまりであったり、または学科単位の相談に対して教員の中での相談体制も進めていただきながら学生一人一人に対応しているということになります。また、メール目安箱等、学生の意見や苦情を受けるシステムというものが構築されていて、対応は遅延なく行われているということを確認しております。また、専攻科課程については、専攻長及び専攻科長が相談、助言を行っています。専攻長というのは準学士課程でいうと、学級担任に当たる専攻科の教員ということになります。今後も学級担任ガイドブックの確認、見直しを継続して進めて、学校としての体制、学生に周知する仕組みを今後も検討して進めていくということにしております。私からの説明は以上です。御質問等ありましたらお願いいたします。

天野参与：いかがでしょうか。お願いします。

小河原参与：今のメール目安箱とか学生の意見や苦情というのがあるんですけれども、これは大体年に何件くらいあるんでしょうかというのと、それと、その下の１３番の入学前に保健調査票による保護者から云々の入学時の支援可能な体制を整えているということがあるんですが、これも全体の今の学生の中で何人でも何％いいんですけれども、どのぐらいおられるんでしょう。

濵口副校長：まず、後半の部分の御質問についてですけれども、入学前に保健調査票によって、例えば、入学式の前に相談を希望するとか、入学式の日に保護者の方が見えたときに保健室で相談を希望するとか、そういうところ、まず、保健調査票を入学書類

と共に郵送していただくんですけれども、そこに記述があったときに学校から電話で連絡を入れまして、そういうことを必要でしょうかというような話をしたりしております。毎年１０件程度ぐらいだと把握をしております。後半についてはそのような形になります。また、メール目安箱の件数についてですけれども、２１年度、昨年度は２１件、今年度については１４件ということで対応をしているというところになります。

小河原参与：ありがとうございました。

天野参与：ほかはいかがでしょうか。

渡辺参与：伺いたいんですが、コロナ禍でやっと経済が上向き始めたんですが、学生の相談の件数というのはどんな推移で来ているんですかね。

濵口副校長：それにつきましては学生相談室長からお願いします。

板屋学生相談室長：学生相談室長の板屋と申します。よろしくお願いします。まずは、本年度の学生相談室の件数が、学生及び保護者からの相談を全部含めまして、これは先週末までで３１０件です。そのうち学生の相談が２３０件です。昨年度は大体２００弱、その前の年がコロナで学校が途中でオンライン授業とかがありました件でかなり少ない年もあったんですけれども、大体２００を超えております。学生自身の相談が２００超えております。以上です。

渡辺参与：あわせて伺いたいんですが、この大項目３のその２にあるいじめの関係とか、こういう類いの相談が多いんですか。

板屋学生相談室長：いじめに関しては、もしあった場合にはいじめ対策委員会がありまして、そこで話し合うことになりますが、いじめに関しても、いじめアンケートは大体、嫌な思いをしたかどうかという確認は年４回やっておりまして、実際いじめアンケートは詳しくは前期後期１回ずつやっておりまして、今年度は多少未然防止というところでいじめに発展する前に対処していて、実際にいじめが起こったというのは今年度は実はそれで議論したことはありません。昨年度は１件ありました。

渡辺参与：ありがとうございます。こういうことで相談が多いという傾向みたいなものというのはございますか。

板屋学生相談室長：相談内容ですけれども、勉学不振とか、あとはメンタルの、いろいろメンタルが落ちるといいますが、あとは家族との関係ですか、そういうところが主な相談内容となっております。

渡辺参与：ありがとうございます。

天野参与：よろしいでしょうか。まだ項目がたくさん残っているので、次に進ませていただきたいと思います。

濵口副校長：ありがとうございました。

児玉副校長：よろしくお願いいたします。学生主事の児玉といいます。本校には学生支援委員会という組織がございまして、次に挙げます４本柱をメインとして業務を遂行しております。１つ目が、就職や進学に対する進路指導、それから問題行動などに対する生活指導が２つ目、３つ目は奨学金ですとか授業料免除などの学生生活の支援、４つ目として学生会活動とか文化祭ですとか、あるいは課外活動などの支援を行っております。こちら、今メインでお示ししていますスライド、同じものを手元にも資料があると思われますが、本日はその中で特に４つ目に挙げました課外活動支援について報告させていただきます。テーマは課外活動に対する支援が適切に機能しているかと書かせていただきました。まず、根拠資料に今までも出てきていますが、マニュアルですとかガイドラインですとか、たくさん登場してきますので、長野高専の教員は教科書がないと動けないのかと感じられる向きもあるかもしれません。電気科ですとかあるいは機械科、特に専門学科の先生方は大学の博士課程を出て研究機関に勤めた後に本校に着任されたり、企業に複数年お勤めになってから本校に来られたりする方もいらっしゃいますので、冒頭で申し上げた学生支援委員会、私どもが担当しております業務に関しては、経験が不足する場合もございますので、支援が不十分で学生の不利益とならないようマニュアルですとかガイドラインなどを作成して業務を進めております。スライドを見ていただいて、左側、支援体制の３項目めに書いてございます令和４年の３月に長野市の北部地域で活動を展開されております３つの総合型スポーツクラブ、北部スポーツクラブ連合と包括連携協定を結ぶことができました。スポーツクラブの会員に長野高専の体育施設が空いている時間帯にその場所をお使いいただいたり、逆に長野高専の課外活動をスポーツクラブのスタッフに指導いただいたり、ウィン・ウィンの関係が構築できればと考えております。また、卒業生中心に外部指導者として登録いただきまして、技術指導などサポートをしていただいております。令和４年度に関しては１７の団体や２４人の外部指導者から支援や指導をいただきました。続いて、スライドの右側ですが、御覧ください。中学の部活動が令和５年度から３年間で地域に移行されるというニュースをお聞きになられていると思います。高専の課外活動に関しても例外ではございませんで、支援の質が低下しないよ

うにしつつ、業務負担の軽減を模索しております。令和２年の秋から課外活動指導員と呼んでおりますが、非常勤職員を２名雇用しまして、土日など休日の課外活動に関してはその団体の顧問が登校し、見守り等の指導を行わなくても大会やコンテストに向けた活動を行えるようにしました。さらに、令和４年の春からは、ちょうど１年たとうとしておりますが、平日の放課後、１７時以降の勤務時間外に関しても、課外活動指導員が緊急時対応を行えるよう指導員の数を増員して対応しております。また、団体の名前は一覧表に書かれているが、実際の活動が充実していない団体、いわゆる幽霊部員と申しましょうか、幽霊団体に関しては整理を行えるようにスライドに書いてございますが、団体活動の継続に関する許可基準を定めまして、年度末に審査を行い、評価の低い団体に関しては解散ですとか降格などの指導が行われるようにいたしました。団体の数の最近の増減に関してはスライドに書かれたとおりでございます。以上で説明を終わります。

天野参与：御質問、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、まだありますので、次の項目に移らせていただきます。

大項目４：準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果（教務主事）

濵口副校長：それでは、再び、三度ですが、濱口から説明をさせていただきます。大きなＡ３の資料７ページ分の４ページということになりますが、こちら全て１８から２７の中から主には１９と２０について説明をさせていただきます。１８につきまして、点検項目はカリキュラムポリシーに基づき、教育課程が体系的に編成されているかということで、自己評価は４、学科再編のカリキュラムについて、さらに整理を進めていくということにしております。飛ばしまして、２１番のカリキュラムポリシーに沿って適切なシラバスが作成され、活用されているかということで、授業の最初に説明を含めまして、カリキュラムポリシーに沿って到達目標を記したシラバスを策定して活用しているということですが、再編によって少しウェブシラバスの十分な対応等の部分で点検、整理していかないといけないところが残っているというところで自己評価を３とさせていただいております。成績評価、進級及び卒業判定についてですが、番号２２、成績評価、単位認定、卒業認定の基準等が学生等に周知されているかというところで、自己評価は４ということで、こちらは必要に応じて改善を進めていくということで確認をするということにしております。２３番、成績評価は適切に行われているかということで、こちらも点検どおり、自己評価のとおり、４ということで、

点検がより効果的に運用できる体制を検討するとしております。２４番、進級判定、卒業認定が適切に行われているかということで、学年末、成績判定会議を開催しまして、資料を作成し、教員会議において確認をしているということで、自己評価を５としております。２５番、学習教育の成果ということで、ディプロマポリシーに沿った学習教育の成果が認められるかということで、こちらにつきましては自己評価を４としております。必要に応じた改善を進めることとしています。２６番、卒業時の学生及び卒業生、進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマポリシーに沿った学習、教育の成果が認められるかということで、自己評価を３としております。こちら、先ほどもお話にございました回答率の改善に向けて、また新設した教学ＩＲ室を中心にさらに体制を整えて整備していくということにしております。自己評価は３としております。２７は、卒業後の進路状況から判断して学習教育の成果が認められるかということで、進路先等を確認しつつ、自己評価を４とさせていただいております。大きな画面の方ですが、上に戻りまして、１９番と２０番になります。１９番、左側が教育課程には学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているかということで、こちらは自己評価４とさせていただいております。現状、実践的な問題解決型学習、アクティブラーニング、実験実習、卒業研究などにより、課題の発見能力、解決能力及び論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成しております。今後、学科再編によって、左側の図にありますが、こちら学科再編の図になります。工学科は１学科となりまして、今後はエンジニアリングデザインという項目のところで、２年生、あるいは４年生で、クラス、分野を超えた形の授業というものを設計して進めていくということにしております。こちらは新しい形の、これまでにない学科再編後の科目ということで、計画をして進めるということにしております。また、下の方では、今日、注目されている分野でありますデータサイエンス、あるいはリベラルアーツ教育にも力を入れていくということで、進めるということになっております。今年度１年生、学年末を初めて迎えているということになりますが、また来年度の１年生、また２年生に進む、工学科の新しい２年生に対しましてもしっかり教育活動、新しい形の活動をしていくということになります。右側、番号２０になります。教育内容に応じた適切な学習指導、途中指導上の工夫がなされているかということで、自己評価を４とさせていただいております。主体的な学習活動に向けた教材の利用や新たなオンライン教材の活用、遠隔授業でも利用できるカメラやＰＣの設置など様々な

工夫を行っているということの現状になっております。少し写真を載せさせていただいておりますが、コロナ禍で新しい教育の手法というものがどの大学や高専でも、また中学校や小学校でも扱われております。こちら、我々も教員としてのいろいろな技を身につけたという部分もあります。これらを例えば家庭学習に利用したり、新しい説明の方法としたいということで、今後も取り入れて進めていくということになろうかと思います。こちらは根拠資料にも挙げさせていただいているんですけれども、授業公開のときに教員相互で参加をしているところの教員のコメントの中に実は出たりしているんですけれども、こういうところが参考になった、新しい先生方、それぞれが工夫される技というものを教員相互に参加して自分のところでも取り入れるとかというようなことも行っているということになります。私からの説明は以上になります。御質問等よろしくお願いします。

天野参与：御質問等ありましたらお願いします。私から、ここは多分すごく項目が多くて、学びの質保証のところとかなりかぶるところが多いなと思うんですけれども、これはこのままの項目でいいんですかね。もう少し整理ができないのかなというような気はしたので、というところで、自主的なものとならなければいけないんですけれども、それともう一点、ディプロマポリシーで質保証というところの中でそれを確保するためのカリキュラムのポリシーとか授業へのひもづけというのが多分これから求められるのかなと思って我々もやっていますけれども、そこら辺は、今、作業はされていますか？

濵口副校長：これまでもディプロマポリシー、今、３ポリシーをしっかり整理ということで注目されている前の段階から学習面に対する学習教育目標ということで、目標を設置しまして、それと各科目がひもづいているというような状態になっております。これがディプロマポリシーの中の例えば専門科目であったり一般科目であったりというところの理解というものがディプロマポリシーの中に入っているというような形、各科目との対応ができているという形になっています。

天野参与：分かりました。

平林参与：実は２３番と２４番について確認したいんですが、成績評価が適切に行われているかが評価４で、その評価を基に進級判定等をするわけですよね。これは５なんですよね。というか、これが分かれること自体がよく分からないんですね。これは矛盾があると思うんですが、いわゆる成績評価はちゃんと行われていなければ進級判断はできないんじゃないかなと。だから、この項目を分けた意味を、４と５にした、さっ

き言われたみたいに評価が曖昧過ぎるもんだから分からないんですけれども、成績評価をちゃんとしないと進級判定並びに卒業認定が適切に行われているかというところは共通じゃないんですかねと思います。

濵口副校長：ありがとうございます。先ほどの項目の整理というところも関係してくるとは思います。成績評価が適切に行われているかということで、まず、科目の成績評価についてはシラバスどおりということで、科目担当者による学生の成績の評価ということになります。こちらが正しく行われていることを成績評価履歴、あるいはその根拠となる資料を確認しながらそれを行っているということになります。項目としては、作業としては、そういう形になります。進級判定、卒業認定というところにつきましては、学校全体ということで、判定資料を見て、それを教員会議、成績判定会議、卒業認定会議において認定しているというところになります。先ほどの自己評価の上が４で下が５というのは確かに違和感ということもあるかもしれないので、ここは項目の整備というところと併せて観点のところも整理していかないといけないと思いますので、こちらについては再度確認をさせていただきたいと思います。

池田参与：１年次から２年次に行くときに、専攻の選択というのはそれぞれが勝手にできるんですよね。アンバランスが起きちゃうとどうするんだろうなという。

濵口副校長：新しい１年生が１２月に希望を取って、そこから調整を行いまして、およそ順番にいくと、情報エレクトロニクス系が２クラス、８０人程度、機械ロボティクス系が８０人程度、都市デザイン系が４０人程度ということで、まず、１年生に周知しまして、希望調査を行うということになります。今回、それ以前に２回予備調査のような形で、年度途中で行っておりまして、最終的に４名の学生に対して第２希望に移動してもらうというような調整となりました。そこにつきましては、担任との面談という形で、機械的な形ではなく、進めたという形になります。

池田参与：辞めちゃう可能性もあるけれども、それはそれでしようがないねと。

濵口副校長：そうならないように話をしていただきながら進めていただいて。

池田参与：せっかく高専に入って、こういうところへ行きたいんだと言って入ったんだけれども、あとは説得されて残りますか、自分の意思を通しますかという判断を二、三回やりますよと。要するに、入学するときに選んでくるんじゃなくて、２年になるときに選ぶんですよねとおっしゃっているんですよね。

濵口副校長：そうですね。入学の段階でもう既に決めていたという学生も当然いたり、入学のときとは変わってこちらを希望するという学生も結構多い数ありました。入学時

には決まってないという学生もおりました。いろいろな学生がいて、実際に１年生に入って、それぞれの分野の内容をしっかり理解した上で変わった、あるいは変わらなかった、それぞれ一定数いて、中学校の段階で選ぶというのは難しいということはあると思います。実際に話を聞いてみると、こっちの分野だということに変わった学生がおりましたので、選択としては、行けなかった子がいるのは我々も残念な部分はあるんですけれども、選択するという部分についてはこれまでよりは情報としては与えられたかなと思っております。

天野参与：よろしいでしょうか。まだまだ項目が残っておりますので、先に進ませていただきたいと思います。それでは、次の項目をお願いします。

大項目５：専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果（専攻科長）

渡辺副校長：よろしくお願いします。専攻科長をしております渡辺といいます。Ａ３の大きい自己点検・評価の項目の５ページ目のところの資料が専攻科に関連するものになっていまして、項目が２８番から３７番という項目になっています。それぞれの点検項目、２８から３７については、先ほど濱口から説明させていただきました準学士課程と同様の項目になっています。本科の場合には卒業という項目を使っていますが、専攻科の場合にはと修了という項目になっております。もしかすると御存じない方もいらっしゃるかもしれませんが、御説明させていただきますと、専攻科は本科５年間の課程を修了した後に２年制の教育課程になります。その２年、ちょうど大学の３年生と４年生の課程が本科の５年の上についておりまして、２年間修了しますと、大学改革支援・学位授与機構から学位が授与される、または、もう一つ、本校は豊橋技術科学大学との連携教育プログラムというのを実施しております。そちらのところとちょうどダブルディグリーといっているのかどうかあれですけれども、ちょうど本校の専攻科と豊橋技術科学大学に同時に入学いたしまして、同時に入学した学生は豊橋技術科学大学から学士、いわゆる大卒の資格をもらうというような制度になっております。各それぞれ、ちょうど２８番、２９番が教育課程の編成につきましては、２つとも自己評価４で評価させていただきました。続きまして、３０番、３１番のところの授業形態、学習指導法につきましても、ともに４で評価させていただいております。続きまして、３２番、３３番、３４番の成績評価、修了判定につきましては、最終的な３４番の修了判定については５で評価させていただきました。あとの項目については４で評価させていただきました。特に成績評価の点検というのは、各教員が成績を

つけたものをエビデンスという形で提出いたしまして、それを教育改善委員がちゃんとシラバスどおりに評価されているかというのを、ある意味目視的にチェックしていますので、もう少し効率的に検討できるような体制ができないかなというところはあります。最後の項目が３５から３７番の学習教育の効果につきましても、全て４と呼んで評価させていただきました。今回中心で説明させていただきますのは、３７番の学習教育の効果について御説明させていただきます。この表につきましては、過去５年間の専攻科の学位取得状況と進路決定状況になります。平成２９年度から昨年度令和３年度までのものになっています。専攻科の１学年の定員が２０名になっております。大体学位授与機構から１３０％以内にしなさいという指導をいただいて、今年度２７名と、昨年度は２７名でした。昨年度からちょうど連携教育プログラムの学生が２名在籍していましたので、２７名中２５名は大学改革支援・学位授与機構で学士を取得しました。また、２名につきましては豊橋技術科学大学から学士を取得したという形になります。進路状況につきましては、専攻科の特殊なところもあって、就職が大体８割で進学が２割というような状況になっています。昨年度については進路決定率１００％という形になっています。そのほかも、進路決定率は１００％と、修了者については１００％になっているところなんですけれども、年によって休学とかそういうのが出てきまして、学位取得率が１００％になっていないというような年度が出ております。以上です。

天野参与：何か御質問ございますか。特にここはよろしいでしょうか。それでは、次に進ませていただきます。

大項目６：アドミッションポリシーに沿った学生の受け入れ（入試広報室長）

鈴木入試広報室長：アドミッションポリシー、いわゆる受入れ方針に基づいた学生の受入れについて、本科と専攻科について説明させていただきます。入試広報室長の鈴木です。よろしくお願いいたします。専攻科のほう、ここはアドミッションポリシーにのっとったということで、専攻科と本科は同じ項目で評価しております。まず、４１番が適切な選抜方法、４２番が入学選抜の改善、４３番が受験者数増加対策というような形になっております。おのおの評価が４、３、３という形になっています。適切に選抜が行われていますが、４２番、改善法が具体的な例がないということと、あと、４３番は先ほどの話で１３０％を超えているということになります。これは専攻科です。　本科のほう、２枚戻っていただいて、こっちも適切な選抜方法ということでや

っていますが、選抜をしているんですが、改善する余地があるということで３にしております。３９番は入学者選抜の方法、ここは先ほどの話にありました教学ＩＲ室の新設につきまして、これまでの検証を進めていっているところですので、評価を３にしております。次、４０番について詳しく説明したいと思います。４０番におきましては、受験者数の増加対策ということで、そちらの大きな画面に示してありますように、本校主催のイベントとして３つ実施しております。１日体験入学として、中学生の３年生を本校に呼びまして、新学科の体験ですとか学校説明会を４２３名に行いました。　その２つ下、秋の説明会というのも行いまして、これも学校説明と授業見学及び施設見学を９０名の生徒さんに行っております。真ん中のところのオンライン進学説明会は、これは中学校の先生に対してオンラインで説明会を実施しました。８４人の先生が参加しております。下のほうは中学校からの依頼でのもので、まず、直接中学校から本校に依頼がありまして、本校の先生が中学校に直接訪問して中学３年生に対して説明を行うというのが３校ありまして、人数が多くて４４５名です。あと、個人とかからの申込みがあって学校を見学するというのが７件、あと先輩の話を聞くとかというので本校の学生が中学校に行って、中学３年生を対象にお話をするというのが７件ありました。このような形で行っております。先ほどの説明会の話はウェブで公開しておりまして、そこからも見ることができますし、あとサイエンスツアーという形で出前授業という形で申し込んで高専を多くの小中学生に知ってもらうという機会をつくっております。しかし、受験者数の対策に対してはまだまだ改善する余地がありまして、今年度新しく入試広報室を立ち上げました。入試広報室で新たな手法を始めているところですが、なかなか倍率が上がらないのは事実ですので、もうちょっと中学生に来ていただければなと思いますし、あと女子学生の増加も今考えているところです。以上です。

天野参与：何か御質問ございますでしょうか。

丸山参与：長野市です。お疲れさまでございます。いろいろと体験入学ですとか出前授業、公開講座ですとかいろいろやっていただいて本当にありがとうございます。我々も今、義務教育の中で、基本的にはもうちょっと理工系へ進む学生といいますか、生徒を増やしたいと。要するに、理科とか科学とかＩＴとか、そういったものに興味を持たせるようなことをやろうということで、Ｒ５年からスーパーサイエンスプログラムみたいな形でやろうとしておりますので、また御協力いろいろとお願いしたいと思うんですけれども、特に今、鈴木先生からそんなに、これだけやられても受験者数が伸び悩

んでいる、あるいは女子が少ないということなんですけれども、具体的に数字的にどのぐらいなんですかね。

鈴木入試広報室長：女子学生は、ここ５年間で大体３８から４２人くらいとか、２０％ですね。ずっと横ばいになっております。工学科が１学科になって少し増えるかなと思ったけれども、今年の１年生は３８人という、例年どおりということになっています。

丸山参与：分かりました。今も申し上げたとおり、これから初等・中等教育においても理科好きをもっと増やして、特に女子なんですけれども、優秀な子は本当にたくさんいます。ただ、国もそう言っていますけれども、もう少し女性の活躍できる、理系へ進む子をぜひとも増やしていきたいと思っていますので、またいろいろと御協力のほどよろしくお願いしたいと思います。

鈴木入試広報室長：こちらもよろしくお願いいたします。

天野参与：ほかはいかがですか。

倉島参与：要望というか、県なんですけれども、他高専の取組としまして、同窓生、卒業生に対してホームカミングデーだったかな、４０歳前後、要はお子さんがちょうど中学卒業前後の卒業生に対しまして、学校から案内を出して、学校のまた説明とかそういう活動をされている高専があります。そんなことも検討していただいて、また、入学者数の増加に活用していただければと思いますので、新たな手法ということの中でひとつ御検討いただきたいと思います。

鈴木入試広報室長：ありがとうございます。ぜひ参考にしたいと思います。

天野参与：もう一方、お願いします。

柳見沢参与：お願いします。先ほど部活動の支援のところで関わらせてもらっているスポコミなんですけれども、週１回ぐらいは今高専へ来て、活動の場を提供いただいてやっているんですけれども、高専の魅力ってすごくあるように感じているんです。生徒の質が非常に高い。これはすごい魅力になると思うんです。だから、何かもう少し発信の仕方をすると、高専の魅力が伝わりながら子供たちが集まってくるという状況はきっとあるんだろうなと思うんですが、そんな中で、３８番のところで、選抜実施の子供の気持ちと何か一致しないで入学しちゃっているところの改善の余地があると評価されて３なんですけれども、これは具体的にどんなようなことでこういうことを感じられているのか、ここら辺をもう少し教えてもらいたいのが一つと。それから、先ほど入試広報室というのはここで言っているＩＲ室という、ＩＲというのがよく分

からないんですが、そのことなのかなと思ったんですが、２点を教えていただきたいんですが、お願いします。

鈴木入試広報室長：アドミッションポリシーというのは科学、数学、理科、英語がよくできる人と、あとは科学に関心を持っている人ということで選抜しているんですけれども、必ずそれら全てがついて入学選抜に関わっているかというのは、まだ疑問するところがあります。改善するところがあります。特に学力選抜は単純に成績だけというか、ペーパー試験だけで取っています。推薦の場合は面接とかがあるんですけれども、そんなようなところでもうちょっと適切な評価ができるかなということで今考えているところです。そういうことを考えるに当たって追跡調査、入ってきた学生がどのような形で本校の教育を受けているかということで、そういうことを分析する部屋が教学ＩＲ室です。分析室みたいなところですね。そういうところで分析をして検証を進めていきながら入試改革とか入学者の人数をたくさんになるようなことを考えているところです。

柳見沢参与：ありがとうございました。

天野参与：よろしいでしょうか。それでは、次の項目、よろしくお願いします。

大項目７：研究活動の状況（研究主事）

小野副校長：それでは、大項目７番、研究活動の状況ということで私から説明させていただきます。まず、番号の４４番ですけれども、研究体制と支援体制ということで、特別経費、配分経費等を使いまして研究活動を活性化していただこうというような活動をしたり、科学研究費の補助金の申請書の提出、こういうものをやっております。あと、リサーチャーのニュースレターを活用しまして、地域との連携、共同研究の推進ということをやってございます。４５番と４６番、自己評価が３ですが、表のほうは４になっております。４に訂正させていただきたいと思います。研究活動の成果としては、こういうことをやりましたよと、皆さんも一緒に活動しませんかということでシーズ集を発行して、共同研究等に使うような、あるいは地域への我々の研究活動の展開、こういうことを取り組んでおります。また、研究業績、これはもうどこでもそうなんですけれども、集約しまして、どんな教員がどういう活動しているのか、これを把握しながらより改善していくような取組を進めてございます。４６番、研究活動の改善なんですけれども、実は従前、研究支援委員会という形で、研究倫理とか特許とか研究活動の活性化ということを含めてやっておりましたが、本年、研究推進委員

会と研究倫理委員会というものに分離しまして、研究活動の推進を担当する部分と、見た目が違う研究倫理に関してはもうちょっと違う組織でやりましょうということで体制を整備させていただきました。大きいスクリーンのほうですけれども、研究活動の状況ということで、これは令和３年度、こちらは令和４年度の１２月の時点ですけれども、共同研究、受託研究、受託事業補助金等でどのぐらい外部資金を取ってきているか、どのぐらいの件数の活動をしているかというところでございます。前年度と比べまして、ほぼ同等ということで４をつけさせていただいたんですけれども、本来でしたらこれをもっと伸ばすような我々も努力していかなきゃいけないところであると考えております。あと、科学研究費補助金ですけれども、これも前年度とほぼ同等の件数、あるいは金額となっております。科研の申請書の添削事業で、何名か新たに科研採択になっている場合もございます。こういう事業を今後とも継続して続けて取り組んでいくという考えでおります。私からは以上です。

天野参与：いかがでしょうか。

池田参与：研究活動をやっていく中で、長野高専だから長野県にあるわけですけれども、長野県の産業だとか、これからの要するに、将来を考えて、こういうところを長野高専の強みとしていこうじゃないかというような研究の方向づけというんですか、ビジョンみたいなのがあったら聞かせていただきたいんですが。

小野副校長：非常に難しい御質問なんですけれども、今、実際長野県の企業と共同研究の件数が恐らく今ここの共同研究３０件の中の１０件、１２、３件だったと思うんですけれども、正確な数字を私は把握していませんでした。こういうものをもっと県内の企業と深めていければなというつながりを、大きなことから始めずに、小さなことからもうつながりをつくりながらうまく進めていきたいなと考えております。大きなビジョンとしては、長野高専、これだけ地域とつながっておりますので、そこのところのパイプをうまく生かしながら取り組んでいく体制をこれから考えていきたい、取り組んでいきたいと考えています。

池田参与：そういう方向ですと、今からの延長線上でしかなかなか見えないと思うんですけれども、たまたまちょうどコロナかなんかがあって、これから地球環境も含めて変わらなきゃいけないんだよね。変わる方向に対して長野高専はこういう技術でリーダーシップを取っていきたいから、産学連携をやろうじゃないかみたいな方向づけをぜひ出していただきたいと思っているんです。お願いします。

小野副校長：ありがとうございます。

天野参与：よろしいでしょうか。そうしましたら、次の項目に進ませていただきます。

大項目８：地域貢献活動等の状況（総務主事）

古川副校長：では、私から大項目の８番、地域貢献活動について御説明いたします。では、Ａ３の資料の７ページを御覧ください。７ページ目の上のほう、８番になりますけれども、小項目の３つに分かれています。まず、１つ目が地域貢献活動の計画ということで、地域貢献活動が適切に定められて、計画的に実施されているか、これについては、定められていて計画的にやっておりますので、自己評価を５としました。それから、次の項目、地域貢献活動の成果ということで、目的に沿った成果が得られているかというところで、これは自己評価を４にしております。それから、次の４９番、地域貢献活動の改善というところで、これについてはアンケートでは改善しているので４と評価させていただきました。では、これについて中央スライドで説明させていただきます。まず、地域貢献活動の目的は、蓄積してきた技術開発と研究、こういった成果を地域に還元して、地域の発展に資すること。それから、２番として産業界とか地域公共団体、コミュニティー、ほかの教育機関と連携して社会活動に貢献するということが目的で定められていて、そして、本校では、出前授業とかオンライン工学講座とか産業フェアに出るとか、それから社会人向けのリカレント教育とか、これを年度当初に計画して実施しております。令和３年度には出前授業を２１件実施しています。それから、令和２年度は８件でした。ここはちょうどコロナ禍の中でやっていまして、令和２年度は８件と少なめだったんですが、令和３年度は２１件になって増えてきています。それから、オンラインの公開講座は１件、令和３年度に実施しています。それから、産業フェア、これは令和３年度は１件でした。これは長野でしかなかったので１件だったんですが、今年、令和４年度は長野と佐久と上田と諏訪で産業フェアが開催されましたので、そちらに出て４件やっております。それから、最後のリカレント教育講座、これはテクノセンターで企画、担当者を設けて４４講座、これを実施しています。そして、これらの地域貢献活動は、アンケートを取りまして、そのアンケートで改善に生かしているというようなことをしております。以上になります。御質問ありましたらお願いいたします。

天野参与：いかがでしょうか。大変よく頑張っているんじゃないかと思います。取りあえず、次に進ませていただきます。

大項目９：財務及び管理運営と情報公開（事務部長）

亀井副校長：事務部長の亀井でございます。大項目９について御説明をさせていただきます。時間の関係もございますので、簡単に御説明させていただければと思います。　まず、財務関係の５０番から５２番でございますが、財務関係のところでいきますと、まず、適切な収支に係る計画が策定され、関係者に明示されているかということにつきましては、予算配分方針等で適切な収支に係る計画を策定しまして、学内に明示しておるところでございます。適切に予算が配分され、その執行状況の確認が行われているかにつきましては、当初予算配分というものがございまして、コロナ禍で、簡単に申し上げますと、例えば、年度当初、こういった今の御時世でございますので、新型コロナウイルス感染症等の拡大により、今年度の実施がまだ年度当初では不透明なものであったり、まだ予算配分の段階で学内コンセンサスが取れていないもの等につきましては、一旦校長裁量経費に配分をしまして、内容を精査した後、あとは実施が確定した後、校長裁量経費から適宜追加配分という形で行わせていただいております。あと、年度当初に機構本部から配分があるものと年度途中で機構から配分があるものがございますので、年度途中で配分されているものにつきましては、適宜また必要なプログラムに対しまして配分を行っておるところでございます。適切に予算が執行され、その結果が公表されているかにつきましては、法令上、公表が義務づけられている書類等々につきましては、その結果を公表しておるところでございます。　こちらが今大項目９のところで財務関係ということで、これは学校要覧に出させていただいているものでございますが、令和３年度の収入と決算額でございます。こうやって見ていただけると、トータルとして、収入の部が９億５，３０７万３，０００円、支出の部が９億５，００４万４，０００円ということで、収入額と支出額の差につきましては、寄附金等の外部資金の受入額であったり、翌年度に繰り越す事業もあったりしますので、そういったところで差が出ておるということになります。見ていただきますと、収入の部としまして、運営費交付金であったり、授業料というので、大体これで３割強の部分で、あと入学検定料、雑収入ということが大体それで５割まではいきませんけれども、あとはここを見ていただきますと、横にもありますけれども、施設整備費がほぼほぼ５割に近い形、それは支出の部でも当然同じように、それは使途が限定されておりますので、施設整備費として配分されたものについては施設整備費として執行しておるところでございます。今年度は、今、建物の改修を行っておりまして、また来年度以降もこういった形で施設整備は使途が限定した形で使わせていただきた

いと思っております。続きまして、管理運営の部分でございます。５３番、各種委員会、事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているかということにつきましては、内部組織規則や各種委員会の規則というものをおのおの制定してございまして、そこの中で各種委員会であったり、事務組織がそれぞれのミッションを担っておりますので、適切に役割を分担し、効果的に活動をしておるところでございます。５４番でございます。情報セキュリティーを含む危機管理等の安全管理体制が整備されているかということにつきましては、情報セキュリティーを含むということになっているんですが、長野高専の場合ですと、リスク管理室というのを設けておりまして、今回のコロナ禍でのいろいろな対応、県や市の医療情勢が刻々と変わる中で、そういったところで学校の運営というのをどうするかということをリスク管理室で審議、決定をしておる次第でございます。あとサイバーセキュリティーの各種規則というのが、これは一律全国の高専で制定を求められているものでございますので、そちらに沿った形で規則を制定しております。それ以外の危機管理ということになりますと、防災管理マニュアル等々を整備しております。５５番でございます。管理運営に関わる職員の資質向上を図るための取組が組織的に行われているかということにつきましては、管理運営に係る資質の向上を図るために、長野高専が自ら研修を実施するというのはなかなか規模的に難しいものでございますので、例えば機構本部が実施するような研修等への参加を積極的に行っておるところでございます。外部資金を積極的に受け入れる取組を行っているか、これは先ほどの研究主事から４４番のところで科研費と、あと企業からの外部資金のお話をさせていただいたところでございますが、そういった場合ですと、外部資金公募の周知や科研費の申請支援ということで、いかに外部からの研究費を獲得できるかということで、添削支援等を実施しておるところでございます。ここには、あと、記載が漏れておりますが、外部資金ということでありましたら、長野高専の教育研究地域貢献活動への支援とか、学生の就学のための支援、あと国際交流の推進のための支援ということも目的としまして、長野高専基金というものを設けております。長野高専基金の場合ですと、学生支援事業全般にわたる支援であったり、就学支援事業、これは奨学金や留学支援といった形で基金に一般の方、卒業生の方、また企業の方から御寄附をいただいて、有効的に活用しておるところでございます。５７番でございます。外部の教育資源を積極的に活用しているかということでございますが、これは実務訓練というものを通しまして、夏季休業期間中に様々な企業・機関において実務訓練を実施しておるところでございます。これは準学士課程、

いわゆる本科での４年制と、専攻科については学外実習で、企業等で５４０時間の実習を行ったところでございます。あと、演習の中で企業等に勤務する方による講演を実施しておるところでございます。一番最後でございますが、５８番、情報公開の部分でございます。情報公開、教育条項について、学校教育施行規則の事項を含むものでございますが、公表されているかという自己点検項目につきましては、今お示ししたとおり、ホームページの教育情報のところで公開をしておるところでございます。こちらにつきましても、最新の情報に更新して継続して公表をしていきたいと思っております。自己評価につきましては、そういったことで、私が今御説明したところに関しましては全て４ということで自己評価をさせていただきました。説明は以上です。

天野参与：いかがでしょうか。私、１点だけお伺いしたいんですけれども、今年、光熱費の増加が私のところでも非常に困っているんですけれども、こちらはいかがでしょうか。

亀井副校長：実は、今、高専を取り巻く、高専だけではないんですんですけれども、信州大学でもそうなんですが、契約の手法を見直すように言われていまして、いわゆる新電力というところが、競争原理を働かせなさいということで、契約手法を見直すように言われているところで、そこのところで、たまたまだったんですけれども、うちは入札を１回実施したところではあったんですが、新電力さんが入ってこなかったということで、従前どおりの中部電力さんからの契約に基づく電気の供給を受けているところでございます。今委員長からもお話がありましたけれども、光熱水料につきまして、光熱水料というか、これはどこの高専、どこの大学も同じような形になっているんですが、やはり単価の向上というのがございまして、それは今のところは何とか内部の中で省エネ等々を図ることでなるべく使用量を抑えてやっていこうということで、実際法人運営はしているところであるんですけれども、それでもやはり今回の高騰というのは結構厳しい話で、実際のところ、機構本部が高騰に基づいて、今後、何か差額支援なりをしていただけるのかどうかというのは、今の段階でまだ不透明なところではあるんですけれども、そういう形で機構で留保している予備費などを使って、値上げ部分について支援していただければいいなと個人的には思っておりますが、今のところは法人の中の、法人というか、学校の中で何とか捻出を図っているところでございます。簡単ですが、以上です。

天野参与：ありがとうございます。うちも国から補助はあったんですけれども、実際には半分ぐらいしか賄えていないので、自助努力せざるを得ないということで、今年は何

とかなるんですけれども、次年度のほうがもっとリスクが上がるとは思っております。ほか、よろしいでしょうか。すみません、私の運営がまずく、かなり時間が超過で、総合討論をする時間なんですが、予定の時間、あまり時間は残っておりませんが、全体を通して皆さんから何か御質問、御意見がありましたらお願いします。

（３）　質疑応答・意見交換

倉島参与：５８の小項目ということで、これは大変なチェック項目だなと思うんですが、私、お話を聞いている中で、組織の適正化とか予算の適正化かどうかという話、これは根本的な話なんですけれども、そんなに人そのものが欲しいからといって増えるわけでもなく、恐らく、私、学校の運営に関してはあまり素人みたいなことを言って申し訳ないんですけれども、結局組織の人数だとか予算というのはある程度決まってくるという前提でこれが行われていると理解をしております。そういう中で、そこについてどうこうというよりも、これだけのチェック項目を今後転がしていくということになると、今の評価のやり方を教えていただきたいんですが、これはあくまでこの項目に沿って担当者が自己評価をして、この資料にまとめて出てくるというような趣旨で、何か経営層の中でこういうものを全体を見通して議論を行ったりとかという仕掛けになっているんでしょうか。それがもうこの項目は担当者がお願いといって担当者に投げて自己評価をして吸い上げているだけの、そういう趣旨なのか、そこら辺の今のこの全体の評価の仕方について教えていただきたいなというところはどうでしょうか。

古川副校長：総務担当の私から御説明いたします。これは基本的に担当者の方から評価をつけていただいています。それで我々副校長と校長が属する執行会議のところにこの一覧表を上げて、そこで一応議論はしてございます。ただ、細かな、本当に一個一個その会議の中で十分に議論しているかどうかというと、それは時間の都合でなかなか難しいところがあります。

倉島参与：ありがとうございます。実は私ども行政も同じような、こういう項目というのがいっぱいあって、どうしても担当者任せになりがちで、我々も工業技術総合センターとかで同じような評価をやったりするんですけれども、結構関連の項目があるので、担当者ではなくて皆さんで少し議論を深めることによってより前進できるような項目も幾つかあるなと感じましたので、私ども自戒も含めて、そんなようなことを仕掛けとして何か考えていかないと、人数がこれでオンされる、これだけの仕事もオンさ

れるわけですから、恐らく、放っておくと形骸化されていくというか、評価をすること自体が目的になりがちなものですから、そんなような感想を持ちました。あと、私ども研究という意味では、さっき言った工業技術総合センターというのをぜひ今後の県の成長分野に向かったところで大いに医療機器や航空機や、それこそ今ＥＶも出てきていて、何とかやって盛り上げていこうということで、県を挙げて少し予算をいただきながらやろうという動きになっております。ぜひ高専さんとも研究という面でぜひ一緒にやってやらせていただきたいと思いますので、そんなことをお願いしまして、今日はありがとうございました。

柳見沢参与：先ほども申したんですけれども、高専さんの学生さんの質の高さというのは非常に感じるということなんですが、私の知っている事例で、長沼小学校でプログラミングのやり取りをされていたというときに、私もたまたまそこの子供たちの場面に居合わせたんですけれども、非常に子供たちが意欲的にプログラミングをしているんですよね。それは高専の学生さんが持っているスキルに対して求める子供たちがうまく関わることができたということだと思うんです。ですから、高専さんが得意としている分野で、しかも学校サイドで必要としているようなところへ関わりを持っていくというようなことをアピールすることが高専の学生の質を外へ向けて発信するいい機会になるんじゃないかなということを思っているんです。非常に学生の持っているスキルをどう売り込むかということが高専のＰＲにつながるかなということを強く感じています。それからもう一点、今日、私どもで評価を宿題にされたというか、やるようになっているわけですが、昨年度もこの評価をどうするかということがオンラインの中で議論され、昨年度は評価は難しいということでやらなくてよかったという経緯があったかと思うんです。今回評価しますけれども、私は、非常に高専に関わる機会があるんですけれども、評価する者として高専へ来れる機会を提供してもらうということが大事なんじゃないかなというようなことを思うんです。だから、そんなようなことも今後検討いただいて、評価のところへ直接感じ取れる私たちの立場も保障していただけるとありがたいなと、こんなことを思いました。以上です。

古川副校長：ありがとうございます。今のあとの話なんですけれども、高専に来れるような機会というのは参与会以外に見学だとか授業に見に来るというか、そういった機会ということでしょうか。

柳見沢参与：そうです。

古川副校長：ありがとうございます。

天野参与：私から１点よろしいでしょうか。この自己点検・評価は多分内部でやることですから全項目やられていいのかなと思うんですけれども、外部評価に関して、全部網羅するのは短時間で非常に難しいなと思いまして、各年度で重点項目を定めて、その項目を毎年外部評価でやって、それが何年かで全ての項目に回るというような、そういうことをやられると、我々も分かりやすいのではないかなというところで、特に今年はこれを重点にしたいというような形でやっていただけたらというのは私の提案でございます。

古川副校長：御意見ありがとうございます。私どもも、これを今回用意しながら、内容が盛りだくさんで、無理かなということは認識しておりました。ですので、来年度以降、重点を絞ってやると同時に、こういった評価以外のこと、最近の高専の変わったところとか、そういったトピックスのお話ができるチャンスがないといけないかなと認識しておりますので、来年度以降変えていきたいと思っております。

天野参与：もう時間が来ておりますので。

小河原参与：２点お願いします。まず、１点目、今年からカリキュラムが変わったわけですけれども、これから１年から２年に上がるときの学生の退学者数と留年者がおりましたらその数を教えていただきたいのと、例年より多いのか少ないのかということ。それと、もう一つは、財務に関係があるかと思うんですが、今、高専バス、大分苦戦されているとは思うんですけれども、その辺のところでもうちょっと利用者を増やすとか、逆に言えば、技術振興会、池田会長がおられますけれども、そういったところで、スポンサーを集めてきれいなラッピングバスに看板をつけちゃうと見栄えが悪いんですけれども、そんなことで少し収益性を上げてもらうとか、例えば、中にモニターがあると思うので、学生の復習ができるような授業風景を撮っておいて、それを中で学生に流して、バスに乗る学生はちょっと得だよみたいな感じで、そんなことをしていただいて、利用されている学生もおるようなのですぐにはやめるわけには思うんですが、そんなことでもうちょっと利用者を増やす、収益性を上げることも御検討いただきたいと思います。これは要望なので返事は要らないですけれども、退学者とかその辺だけ数を教えていただければ。

濵口副校長：教務主事の濱口からお答えします。１年生についてということで、１年生につきましては、まだ留年等についてはまだ成績会議がこの後ということになりますので、不明の部分はあるんですけれども、カリキュラムが、例えば１年生の学ぶ内容が２年生に上がっている、少しゆとりを持ったカリキュラムにしたところで、私、数学

担当なんですけれども、数学に関しては成績は２年に比べてすごく上がっているなという印象がございます。退学者については、実は４月の入学の時点から登校できずという学生が１名だけ、その方向で現在ということになっています。

小河原参与：じゃ、例年多分１、２名程度はいたと思うので、あまり変わらないという。

濵口副校長：そうですね。１年生だとそういうあまり変わらない感じです。

小河原参与：ありがとうございます。

亀井副校長：バスの関係でございます。簡単に御説明させていただきますと、去年の段階では、バスを走らせますよというお披露目をしたのが実は合格者説明会のときでしたので、もう寮に入るとか、そういったある程度本人の意向はもうかなり決定している段階でいきなりバスということもありましたので、なかなか利用者数が伸びなかったというのがあるんですが、今年につきましては、夏から何度も志願者、入学希望者に対しましてバスというのをかなりもう見せておりますので、そういった部分では、去年よりは人数が増えるんじゃないかなと期待をしておるところでございます。松本支部等々で行われます講演会にも、私どもで御説明に上がってバスの利用を促進したいなと思っております。また来年はもうちょっといい数字がお伝えできるといいなと思うんですが、やはりバスを走らせるということを最初に言っているところもございますが、先ほどもありましたけれども、なかなか明日からすぐやめますとはなかなか言えないところではあるんですけれども、費用対効果も考えて、今後学校の中でも議論していきたいと思っております。貴重な御意見ありがとうございました。

小河原参与：同窓会にお願いするのがなければいいので。

天野参与：そのほか、全体、よろしいでしょうか。ないようですので、それでは、事務局にお返ししたいと思います。

７．閉会

江﨑校長：本日は、２時間程度にわたりまして、本校の教育の質保証、それから教育環境、学生支援、研究並びに地域貢献、あるいは学校運営等に関連した自己点検・評価シート及びその評価の結果につきまして、参与の皆様方から大変貴重な御意見をたくさんいただきまして誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。いただきました御意見は、本校の今後の自己点検・評価体制にしっかりと反映をさせて、高等教育機関としての一層の充実につなげていきたいと思います。どうか今後とも引き続き皆様方の御支援、それから御協力、そして御指導を賜りますことをお願いいたし

まして、大変簡単ではございますが、閉会の御挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

以上

第19回長野工業高等専門学校参与会

≪次 第≫

日　時　　令和５年２月１４日（火）　10:00～12:00

会　場　　長野工業高等専門学校 第１会議室

次　第

１．開会

２．会長・副会長紹介

３．自己紹介（各参与・長野高専出席者）

４．校長あいさつ

５．配付資料確認

６．令和４年度自己点検・評価

　１）自己点検・評価表の評価方法

　２）自己点検・評価の説明

　３）質疑応答・意見交換

７.閉会

第19回長野工業高等専門学校参与会　配付資料

○ 長野工業高等専門学校参与会設置要項

○ 第19回長野工業高等専門学校参与会出席者名簿／座席表

資料№.１　令和４年度自己点検・評価表

資料№.２　自己点検・評価の方法

資料№.３　説明資料

資料№.４　補足説明資料

資料№.５　評価記入用シート

冊子等

○　学校要覧（2022年版）

○　GUIDE BOOK 2023

○　学園だより（187号）

○　長野高専基金

資料No.1 令和４年度自己点検・評価表

令和4年度　自　己　点　検　・　評　価　表

第19回長野工業高等専門学校参与会資料
令和5年2月14日（火）10:00～12:00

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状（文章）	自己評価（1から5）	改善点（文章）
1. 教育の内部質保証	自己点検評価	1	自己点検・評価を実施するための方針、体制が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されおり、 自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。	総務主事	総務主事 （教育改善委員長）	1.1 長野工業高等専門学校自己点検評価の実施に関する要項 1.2 教育の質保証のための各種点検・改善システムに関する申合せ 1.3 R2年度計画　実績調査に対する自己点検評価 1.4 運営会議議事概要（工学科の3ポリシー） 1.5 1.5 執行会議議事概要（専攻科の3ポリシー） 1.6 授業改善システム（抜粋） 1.7 令和3年度教育改善報告書 1.8 令和3年度長野高専の満足度調査報告書 1.9 自己点検評価報告書https://https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/self/index.php	・自己点検評価の実施に関する要項が定められており、6つの各種点検・改善システムの申合せに従って、自己点検・評価が行われ、その結果が公表されている。 　自己点検評価項目による点検システム 　年度計画項目による点検システム 　DP、CP、APの点検・改善システム 　各委員会の重点項目の点検システム 　授業改善システム 　学生への支援体制点検システム	5	一部の自己点検評価項目による点検システムは、令和4年度に初めて実施されるものであり、継続して実施していく。
		2	学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が、教育の質の改善・向上に繋がっているか。		総務主事	2.1 R01　卒業生企業等アンケート報告書 2.2 令和2年度　教育改善報告書　本文 2.3 令和3年度教育改善報告書	・令和元年度にアンケート調査を実施し、意見聴取が行われ、要望等を各委員会に教育改善委員会より提言した。	3	アンケートの回収率が15%ほどであり、高めることが望まれる。
	3つのポリシー	3	準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が定められており、社会の状況等の変化に応じて見直されているか。	教務主事	教務主事 専攻科長	3.1 準学士課程および専攻科の3つのポリシー（ホームページ掲載） 3.2 執行会議等の各種資料	・令和3年度に、改組新学科である工学科の3ポリシーを新たに策定し、現行の5学科および専攻科のアドミッションポリシーに入学選抜の基本方針を入れる修正を行った。 ・専攻科については、令和4年度は方針および教育課程の見直しは行っていない。引き続き社会の状況の変化に応じて見直しを行う。	5	社会状況に応じて見直していく。
2. 組織及び教員・教育支援者	学校組織	4	教育活動を展開する上で必要な運営体制が 適切に整備され、機能しているか。	事務部長	事務部長	4.1 組織図 4.2 内部組織規則 4.3 校務分掌一覧 4.4 会議資料（議事概要）	・本校の使命・目的を達成するために、教育研究の基本的な組織が適切に構成され、各組織においても適切な関連性が保たれている。	4	教育研究活動の充実及び社会の要請等に対応していくため、必要に応じ適切に見直していく。
	教員等の配置	5	準学士課程、専攻科課程において、一般及び専門の教員並びに教育支援者が適切に配置されているか。	教務主事	教務主事 専攻科長 事務部長	5.1【抜粋】2022学校要覧（組織図・専任教員一覧） 5.2 2022後期本科専攻科時間割 5.3 特例の適用認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査に係る基本データ（別紙1） 5.4 学則別表第3-6（専攻科） 5.5 専攻科教員氏名経歴概要等を記載した書類 5.6 学修総まとめ科目「特別研究II」課題一覧	・準学士課程においては、一般及び専門の教員を各科目担当者として配置し、必要に応じて技術支援部より技術職員を配置している。 ・専攻科課程においては、生産環境システム専攻に機械工学、電気電子工学、土木工学を専門とする教員を、電気情報システム専攻には電気電子工学を専門とする教員を配置した。	4	学科再編による変更点を確認し適切に配置していく。
	教員の評価	6	教員の採用や昇任に関する基準があり、適切な運用がされており、教員の教育研究活動に対して、定期的な評価が行われているか。	教務主事	校長 教務主事	6.1 長野工業高等専門学校教員選考基準 6.2 長野工業高等専門学校における教員の昇任選考に係る取扱い 6.3 長野高専における教職員顕彰に関する申合せ	・教員の採用や承認は、これらに関する基準に則り行われている。 ・年度当初の業務計画や研究業績一覧等により、教員の教育研究活動に対する評価を実施している。	4	必要に応じて基準を見直しながら適切な評価等を継続していく。
	FD活動	7	FD・SD活動が実施され、改善等に結びついているか。	総務主事	総務主事 （教育改善委員長）	7.1 令和3年度教育改善報告書	・令和3年度は計4回のFD研修会を実施した。FD・SDは実施されているが、教育およびその支援等の具体的評価手法が定められていない。	3	教育およびその支援等の具体的評価手法について検討する。

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点
3. 学習環境及び学生支援	学習環境	8	学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。	総務主事	事務部長	8.1 施設利用実態調査 8.2 令和4年度第1回安全衛生委員会議事要旨	・学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用している。	4	学校の施設・設備の有効活用を図るため、長期的展望に立ち、環境に配慮した計画的、積極的な整備を行う。
		9	学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。		教務主事 （情報教育センター長） 総務主事 （教育改善委員長）	9.1 令和3年度長野高専の満足度調査報告書 9.2 BYOD購入依頼文書 9.3 BYOD+PCに関する学生アンケート 9.4（簡易版)スイッチ_AP_配置図_20221107 9.5 ネットワーク接続マニュアル_教職員 9.6 校内無線LANへの接続方法_Windows10 9.7 長野高専　情報システム関連　FAQ（学生向け）	・学生の満足度調査が行われ、有効に活用できている。 ・令和3年度の１年生から、BYOD（BringYourOwnDevice：個人所有端末）を導入し、学生個人のPCを授業に活用している。BYODを推進することにより、PCなどの情報機器をより身近なものとし、卒業までの在学中にICTを活用するスキルを高めるのみならず、最新のPC環境を学生が利用できるようになった。 ・全学生を対象としたBYODの無線LAN環境を提供している。 ・認証方式をIEEE802.1x認証としてセキュアなネットワーク接続環境を提供している。	4	今後も継続する
		10	図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、 整理されており、有効に活用されているか。		総務主事 （図書館長）	10.1 令和2年度図書館蔵書統計 10.2 学校要覧図書館のページ【2022学校要覧から抜粋】 10.3 令和3年度後期図書館利用状況報告	・図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を教員からの推薦により購入し系統的に整理し、有効に活用されている。 令和3年度の状況 ・蔵書総数 82,387冊（令和2年度：74,348冊） ・入館者数　34,100人 ・退出冊数　5, 404冊 ・帯出者数　2,766人	4	今後も継続する
		11	新入生、留学生、編入生に対して、履修や施設・設備等に関するガイダンスを実施しているか。	教務主事	教務主事 専攻科長	11.1 新入生の年度当初の日程について 11.2 新入生のための学習のアドバイス 11.3 令和4年度専攻科ガイダンス実施要領 11.4 外国人留学生生活ガイドブック	・準学士課程においては、新入生、留学生、編入学生に対しては、授業開始までに、ガイダンスを実施している。 ・専攻科課程においては、1年生は入学式当日に、2年生については別途機会を設けてガイダンスを実施した。2年生については学位申請ガイダンスも実施している。	4	様々な変更点を含め、適切なガイダンスの実施を継続する。
		12	学生の自主的学習を進め る上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。		教務主事 専攻科長 学生相談室長 総務主事（教育改善委員長）	12.1 学級担任ガイドブック 12.2 学生相談室報告 12.3 2021年度メール目安箱投書メール対応状況一覧 12.4 令和3年度長野高専の満足度調査報告書 12.5 内部規則規程（専攻長） 12.6 専攻科１年生面談予定	・準学士課程においては、学級担任制により、学生の相談・助言を行っている。 ・メール目安箱等、学生の意見や苦情を受けるシステムが構築され、対応は遅延なく行われていいる。 ・専攻科課程については、専攻長および専攻科長が相談・助言を行っている。	4	学級担任ガイドブックの確認や見直しを継続して進める。学校としての体制を、学生に周知する仕組みを検討する。
		13	特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等が行われているか。		教務主事 専攻科長 グローバル教育推進センター長 （国際交流センター長） 学生相談室長	13.1 令和4年度第1回国際交流センター会議議事概要 13.2 外国人留学生チューターの手引き 13.3 相談室会議資料 13.4 障害のある学生に対する特別支援	・入学前に保健調査票による保護者からの申し出等により特別な支援を必要とする学生を把握し、入学時より支援可能な体制を整えている。 ・留学生(3・4学年)に対してはチューターを選考し、学習と生活の支援を計画通りに実施している。また、留学生の生活支援として、寮務委員と留学生の近況の情報を共有することとし連携体制を整えた。 ・専攻科課程については、専攻長および専攻科長が学習支援や生活支援を行っている。	4	各学生の状況に応じて支援を行っている。今後も継続する。

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点
	学生支援	14	学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言等を行う体制が機能しているか。	学生主事	学生主事 専攻科長 学生相談室長	14.1 学生相談室報告 14.2 経済支援実績R04学生支援委員会議事概要 14.3 学生支援委員会資料 14.4 学生支援委員会資料 別冊奨学金等の構内基準一覧 14.5 経済支援周知チラシ保護者向け 14.6 学級担任業務ガイド	・本科生に対しては学級担任をおき、また専攻科生に対しては専攻長が、きめ細かな指導・支援を行っている。また、学級担任業務ガイドをつくり(随時更新し)、社会状況に応じた指導・支援を行っている。さらに、個別の問題については学生相談室と連携して支援を行なっている。	4	個別の問題にチームで対応することになるが、専門家を含めたチーム内の連携を高めていく。
		15	進路指導およびキャリア教育の体制が機能しているか。		進路支援室長	15.1 進路支援室会議議事概要 15.2 実務訓練の手引き 15.3 進路選択ガイド	・本科生に対しては学級担任や系長(学科長)が、専攻科生に対しては専攻長や専攻科長が、きめ細かな指導・支援を行っている。また、学生向け進路選択ガイドをつくり(随時更新し)、状況に応じた指導・支援を行っている。 ・本科生の実務訓練は教務委員会と4学年会が中心となり、また専攻科生の学外実習は専攻科運営員会が中心となって支援を行なっている。 ・令和4年度から進路支援室が中心となってキャリア講演会、進路講演会、卒業生講演会、進路説明会を実施している。	4	本年度から進路支援室を新設し、支援体制を強化していく。
		16	課外活動に対する支援体制が、適切に機能しているか。		学生主事	16.1 2022年度部・同好会の指導に関するガイドライン 16.2 部・同好会指導教員一覧 16.3 ケガ等報告書 16.4 長野高専課外活動指導員マニュアル 16.5 課外活動指導員業務報告書 16.6 団体結成審査方針の見直し 16.7 部・同好会の校内手続き 施設使用願	ガイドラインやマニュアルをつくり(随時更新し)、適切な支援を行うとともに、校内手続きのスマート化をはかっている。 「団体結成願(申請)の許可基準について」、「部・同好会活動の継続許可基準について」(執行会議承認)等により、団体数や活動の質をコントロールし、それを支える教職員の支援体制が適切に機能するよう努めている。	4	教職員の負担軽減のため、課外活動指導員(非常勤職員)の増員を引き続き行っていく。
		17	学生寮が、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	寮務主事	寮務主事	17.1 寮生会との協議会開催日程 17.2 寮生活に関するアンケート集計結果	・勉強会についてはコロナ過であるため、本年度は1回のみ開催している。 ・満足度調査は実施している。 ・寮生会との懇談会は月に1回程度実施している。	4	今後、勉強会の実施回数を増やしていく。

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点
4. 準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果	教育課程の編成	18	カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的に編成されているか。	教務主事	教務主事	18.1 教育課程表 18.2 系統図	・カリキュラムポリシーに基づき、理数系基礎科目及び人文社会系の教養科目は低学年を中心に、工学系の科目は高学年を中心に体系的に配置している。	4	学科再編後のカリキュラムについて、さらに整備を進める。
		19	教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。		教務主事	19.1 教育課程表 19.2 系統図 19.3 シラバス（科目の抜粋）	・実践的な問題解決型学習、アクティブラーニング、実験実習、卒業研究などにより、課題の発見能力、解決能力、及び論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成している。 ・異文化理解、コミュニケーション力を育成する授業科目を編成している。	4	学科再編により対応させて配置したカリキュラムの確認を継続する。
	授業形態、学習指導 法	20	教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。	教務主事	教務主事	20.1 授業公開（教員相互参観）アンケートより（抜粋）	・主体的な学習活動に向けた教材の利用や、新たなオンライン教材の活用、遠隔授業でも利用できるカメラやPCの設置など、様々な工夫を行っている。	4	新たな教育手法とあわせて、教育改善を継続して進める。
		21	カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。		教務主事	21.1 シラバス（科目の抜粋） 21.2 授業改善システム（抜粋）	・カリキュラムポリシーに沿って設定された到達目標を記したシラバスを作成し、活用している。	3	再編によるWebシラバスの問題点にも対応しながら改善を進める。
	成績評価・進級及び卒業判定	22	成績評価・単位認定及び卒業認定の各基準が学生等に周知されているか。	教務主事	教務主事	22.1 教育課程表 22.3 シラバス（科目の抜粋）	・シラバスにおいて、成績評価および単位認定の基準を明記している。 ・教育課程表において、進級および卒業認定の基準を明記している。	4	必要に応じて改善を進める。
		23	成績評価は適切に行われているか。		教務主事 総務主事　（教育改善委員会）	23.1 シラバス通りに成績評価が行われているかの一例 23.2 授業改善システム（エビデンスのチェック）	・各教員により成績評価が行われ、教育改善員会によりエビデンスの確認を行っている。 ・成績評価がシラバス記載の通りに実施されているかの自己点検、および教育改善委員会におけるチェック体制と整えられ、適切に実施されている。	4	点検がより効果的に運用できる体制を検討する。
		24	進級判定、卒業認定が適切に行われているか。		教務主事	24.1 成績判定会議の開催 24.2 年度末成績一覧	・卒業、進級判定のための資料を作成し、教員会議において確認している。	5	必要に応じて改善を進める。
	学習・教育の成果	25	ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	教務主事	教務主事	25.1 R3学生表彰受賞者一覧 25.2 R3特別敢闘賞受賞者一覧 25.3 年度末成績一覧	・各科目の平均点、卒業研究発表、学生表彰により、学習・教育の成果を確認している。	4	必要に応じて改善を進める。
		26	卒業時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。		教務主事	26.1 R3学習・教育目標の達成度自己評価調査票のまとめ 26.2 R3卒業生・修了生アンケート分析 26.3 R01卒業生企業等アンケート報告書	・卒業時の学習・教育目標達成度自己評価、ならびに卒業生・企業等アンケートにより確認している。	3	回答率の改善に向けて、新設した教学IR室を中心にさらに体制を整える。
		27	卒業後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。		教務主事	27.1 R3年度_進路指導報告書 27.2 R3進路先一覧	・進路指導報告書の就職先および進学先から、学習・教育目標の成果が認められる。	4	必要に応じて改善を進める。

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点
５．専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果	教育課程の編成	28	カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的並びに準学士課程との連携および発展的に編成されているか。	専攻科長	専攻科長	28.1学則別表第3-6（専攻科） 28.2教育課程系統図	・融合複合・新領域で教育課程を編成しているため、系統図上は本科と結ばれていないが、本科で基礎的なことを学び、専攻科で応用的なことが学べるよう教育課程を編成している。	4	
		29	教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。		専攻科長	29.1 シラバス抜粋	・授業科目の内容については、シラバス作成時に内容の検討を依頼している。また、社会からの要請に対応し、創造力・実践力を育む科目として「機能デザイン」、「学外実習」、「実践工学演習」を実施、異文化や地域の文化を理解する科目として「英語特論Ⅰ・Ⅱ」を実施している。	4	
	授業形態、学習指導 法	30	教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。	専攻科長	専攻科長	30.1 第13回委員会資料（R03専攻科運営委員会後期活動概要）	・ICT機器、遠隔授業、授業のアーカイブ作成など工夫している。	4	
		31	カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成・活用され、研究指導が適切に行われているか。		専攻科長	31.1 生産環境システム専攻シラバス 31.2 電気情報システム専攻シラバス 31.3 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書 2022生産環境_機械工学 31.4 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書 2022生産環境_電気電子工学 31.5 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書 2022生産環境_土木工学 31.6 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書 2022電気情報_電気電子工学 31.7 R04特別研究Ⅰ Ⅱ発表会実施要項	・カリキュラム・ポリシーに沿ってシラバスを作成している。また、授業開始時にシラバスの内容を説明するとともに、授業実施のスケジュールの説明等に活用している。 ・大学改革支援・学位授与機構の認定を受けた個表を持つ指導教員が研究指導を行うとともに、研究成果を特別研究発表会において発表させている。	4	
	成績評価・修了判定	32	成績評価・単位認定及び修了認定の各基準が学生等に周知されているか。	専攻科長	専攻科長	32.1 R4専攻科学生便覧	・成績評価および単位認定についてはシラバスを使って説明している。修了認定については年度当初のガイダンスで学生便覧掲載の学則別表3～6を説明している。	4	
		33	成績評価は適切に行われているか。		専攻科長 総務主事 （教育改善委員会）	33.1 シラバス通りに成績評価が行われているかの一例 33.2 授業改善システム（エビデンスのチェック）	・成績評価がシラバス記載の通りに実施されているかの自己点検、および教育改善委員会におけるチェック体制と整えられ、適切に実施されている。 ・エビデンスの提出を受け、成績評価が適切に行われているか教育改善委員会で点検している。	4	点検活動がより効果的に運用できる体制を検討する。
		34	修了認定が適切に行われているか。		専攻科長	34.1 R3専攻科「産業システム工学」プログラム修了判定資料	・専攻科運営委員会および教員会議で確認した後、執行会議で修了判定を行っている。	5	
	学習・教育の成果	35	ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	専攻科長	専攻科長	35.1 R3 専攻科2年生・総合判定表 35.2 R4.3連携教育P修了判定資料	・ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められ、27名全員の専攻科修了を認めた。また、JABEEプログラムは25名、連携教育プログラムは2名の修了を認めた	4	
		36	修了時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。		専攻科長	36.1 R03専攻科修了生到達度調査_AP 36.2 R03専攻科修了生到達度調査_AE 36.3 R03ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価確認表(学生用, 20200304) 36.4 R03学習・教育目標の達成度評価確認（E渡辺）	・ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果は、修了時の学生面談や達成度評価確認表等で確認した。	4	
		37	修了後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。		専攻科長	37.1 専攻科の修了状況 37.2 過去5年間の学位取得状況と進路決定状況（H30-R3） 37.3 専攻科の就職状況 37.4 専攻科の進学状況 37.5 特例の適用認定を受けた専攻科における教育の	・大学改革支援・学位授与機構に学位申請した25名全員の学士（工学）が授与された。また、豊橋技術科学大学との連携プログラム生2名は同大から学士（工学）が授与された。 ・進路は全員就職または進学が決定しており、学習・教育の成果を確認した。	4	

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点
6. アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ	準学士課程の学生の受け入れ	38	アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学者選抜方法が適切に実施されているか。	教務主事	教務主事	38.1 令和5年度長野高専入学者募集要項（抜粋） 38.2 R5推薦選抜実施要領（抜粋） 38.3 R4学力選抜実施要領（抜粋）	・科学技術への関心を持つことを出願資格に明記し、調査書および面接により推薦選抜を実施している。 ・数学、理科、英語に傾斜配点を行った学力検査と調査書により学力選抜を実施している。	3	アドミッションポリシーに沿って選抜を実施しているが、合致する形に向けては改善の余地がある。
		39	入学者が、アドミッション・ポリシーに沿っているか検証し、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。		教務主事	39.1 教学IR室報告（R4入学者選抜）	・教学IR室を新設し、入学者の追跡調査ならびに選抜方法の改善への検討をしている。	3	今年度、教学IR室を新設し、これまで以上に検証を進めることとしている。
		40	受検者数増加対策は効果的に行われているか。		入試広報室長 教務主事 総務主事（広報企画室） 男女共同参画推進室長	40.1 R4一日体験入学実施案 40.2 令和4年度入試広報活動実施状況（入試広報室会議資料） 40.3 男女共同参画推進の事業例	・一日体験入学を実施し、中学生は学科再編を行った工学科のすべての系での体験授業に参加した。 ・中学校での対面での説明会、およびオンラインでの説明会を実施し、動画をホームページでも公開している。 ・出前授業の実施は、長野高専を多くの小中学生に知ってもらう機会となっている。 ・東京2020パラリンピック「車いすバスケットボール男子」に日本代表として出場した藤澤潔先生による特別講義を開催した。	4	新たな手法の検討も進める。
	専攻科課程の学生の受け入れ	41	アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学者選抜方法が適切に実施されているか。	専攻科長	専攻科長	41.1 R5専攻科学生募集要項	・アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学者選抜方法が適切に実施している。	4	
		42	入学者が、アドミッション・ポリシーに沿っているか検証し、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。		専攻科長	42.1 専攻科における過去5年間の休学者および退学者	・過去5年間における退学者が1名であり、アドミッション・ポリシーに沿った選抜ができている。	3	入学者選抜の改善に役立てた具体例はない。今後検証する。
		43	受験者増加対策は効果的に行われ、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。		専攻科長	43.1 R04_4年生進学講演会実施要項 43.2 学校要覧2022抜粋_入学志願者入学状況 43.3 特例の適用認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査に係る基本データ（別紙1）	・12月に本科4年生に対して進学説明会を実施している。 ・過去5年間の定員充足率は、生産環境システム専攻が140.0%、電気情報システム専攻が142.5%と多めである。	3	大学改革支援・学位授与機構からは130%程度となるよう指導されており、改善したい。
7. 研究活動の状況	研究体制と支援体制	44	研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。	研究主事	研究主事	44.1 長野工業高等専門学校における研究活動に関する目的・基本方針および目標 44.2 特別経費運用方針および申請通知 44.3 令和4年度科研費申請書添削支援状況 44.4 RAの雇用に関する取扱いについて	・特別経費配分による教育研究活動支援を実施している。 ・科学研究費補助金申請書の添削支援を実施している。 ・リサーチアドミニストレータによる研究活動支援や企業との共同研究マッチングを実施している。	4	
	研究活動の成果	45	研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。		研究主事	45.1 令和4年度長野高専シーズ集 45.2 令和3-4年度科研費および共同研究等受入れ状況 45.3 令和3年度研究業績等一覧	・シーズ集の発行および技術振興会会員向け配布や産業展等での配布および説明を実施している。 ・研究業績の収集および公開等を通じて研究活動の状況把握を実施している。	4	
	研究活動の改善	46	研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。		研究主事	46.1 研究推進委員会規則 46.2 研究倫理委員会規則	・研究推進委員会を発足させ，研究業績等の収集や知財管理，外部資金獲得支援や紀要発行体制を整備した。 ・研究倫理委員会を発足させ，研究倫理審査等の体制を整備した。	4	各委員会設置が9月であったため，研究推進委員会の主な業務は次年度以降の活動となる予定。

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点
8. 地域貢献活動等の状況	地域貢献活動の計画	47	地域貢献活動が適切に定められ、計画的に実施されているか。	総務主事	総務主事 研究主事	47.1 長野工業高等専門学校における地域貢献活動等に関する目的・基本方針および目標 47.2 令和3年度広報企画室の活動計画・取組結果【令和3年度教育改善報告書から抜粋】 47.3 令和4年度地域共同テクノセンター事業（ご案内） 47.4 令和4年度地域共同テクノセンター暦	・長野高専における地域貢献活動等に関する目的・基本方針および目標を定めている。 ・サイエンスツアー（出前授業）、サイエンス・ライブ（公開講座）、学外開催の各種科学イベント、県内各地の産業フェア等に計画の上、出展している。 ・テクノセンターにおいて44のリカレント教育事講座等を企画し実施中。	5	令和3年度までコロナ禍で地域貢献活動に制約があったが、令和4年度は徐々に制約が少なくなりつつあり、感染予防に配慮しながら実施を継続していく。
	地域貢献活動の成果	48	地域貢献活動の目的等に沿った成果が得られているか。		総務主事 研究主事	48.1 令和3年度広報企画室の活動計画・取組結果【令和3年度教育改善報告書から抜粋】 48.2 令和4年度地域共同テクノセンター講座実施計画	・サイエンスツアー（出前授業）、サイエンス・ライブ（公開講座）、学外開催の各種科学イベント、県内各地の産業フェア等において,産業界, 地方公共団体, コミュニティ, 他の教育機関と連携することにより、社会活動に貢献している。 ・蓄積してきた技術開発や研究の成果をリカレント教育により地域社会に還元し、地域の発展に務めている。 ・リカレント教育講座等に企画担当者を設置し, 講座内容の充実や改善を行った。	4	今後も継続していく
	地域貢献活動の改善	49	地域貢献活動の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。		総務主事 研究主事	49.1 令和3年度広報企画室の活動計画・取組結果【令和3年度教育改善報告書から抜粋】 49.2 令和3年度地域共同テクノセンター講座アンケート結果	・地域貢献活動の実施状況を把握するとともに、アンケート調査を実施し改善を図っている。	4	今後も継続する
9. 財務及び管理運営と情報公開	財務関係	50	適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。	事務部長	事務部長	50.1 2022予算配分方針（確定版）	・適切な収支に係る計画等を策定し、学内に明示している。	4	
		51	適切に予算が配分され、その執行状況の確認が行われているか。		事務部長	51.1 2022学内当初予算配分（確定版）	・適切に予算を配分し、執行状況の確認を行っている。	4	学校運営上の課題を把握し、予算の適正な配分に努める
		52	適切に予算が執行され、その結果が公表されているか。		事務部長	52.1 HP：情報公開｜学校案内｜国立長野高専	・適切に予算を執行し、法令上、公表が義務付けられている書類については、その結果を公表している。	4	
	管理運営	53	各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	事務部長	事務部長	53.1 内部組織規則 53.2 各委員会規則 53.3 事務組織及び事務分掌規則 53.4 令和3年度教育改善報告書	・各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動している。	4	
		54	情報セキュリティを含む危機管理等の安全管理体制が整備されているか。		総務主事 事務部長	54.1 リスク管理室規則 54.2 サイバーセキュリティ管理・推進・教職員 規則 54.3 2022年度防災マニュアル（防災訓練用組織図あり） 54.4 情報セキュリティ利用者規則	・情報セキュリティを含む危機管理等の安全管理体制が整備されている。	4	
		55	管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組が組織的に行われているか。		事務部長	55.1 管理運営等の研修会への参加リスト	・管理運営に関わる資質の向上を図るため、機構本部が実施する研修等への参加を積極的に行っている。	4	
		56	外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。	研究主事	研究主事	56.1 特別経費運用方針, 申請通知および配分結果 56.2 令和4年度科研費申請書添削支援状況	・外部資金公募の周知や科研申請支援として添削支援を実施した。	4	外部資金公募情報の周知や申請促進活動がさらに必要。
		57	外部の教育資源を積極的に活用しているか。		教務主事 専攻科長 研究主事	57.1 実務訓練の手引き	・準学士課程4年次では、夏季休業中に様々な企業・機関において実務訓練を実施した。 ・専攻科課程においては、学外実習では企業等で540時間実習を行った。また、実践工学演習では企業等に勤務する方による講演を実施した。	4	企業・機関の協力を頂きながら継続して進める。
	情報公開	58	教育情報（学校教育法施行規則の事項を含む）が公表されているか。	総務主事	総務主事 事務部長	58.1 HP：教育情報｜学校案内｜国立長野高専	次のURLのホームページに掲載している。 https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/educational/index.php	4	今後も最新の情報に更新し継続する

資料No.2 自己点検・評価の外部評価方法

第19回長野工業高等専門学校参与会資料
令和5年2月14日（火）10:00～12:00

自己点検・評価の外部評価方法

1．以下の資料をもとに、資料 No.5 の「評価点」「コメント」のご記入をお願いいたします。
　資料 No.1 令和４年度自己点検・評価表
　資料 No.2 自己点検・評価の外部評価方法
　資料 No.3 説明資料
　資料 No.4 補足説明資料
　資料 No.5 評価記入用シート
2．参与会当日は、担当副校長等より各小項目を概説したのちに、資料 No.1 の色付けされている小項目（重点項目）について、説明資料等（資料 No.3 および No.4）を用いて説明いたします。
3．担当副校長等の説明ののち、説明箇所について質疑等があればご発言をお願いいたします。
4．「外部評価」「外部の意見」については、資料 No.5 に大項目単位でご記入いただき、当日ご提出いただくか、後日長野高専に郵送にてお送りください。

＜大項目単位の重点項目＞

1．教育の内容質保証（番号１～３）
番号１（自己点検・評価を実施するための方針、体制が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されおり、自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。）
発表者：総務主事

2．組織及び教員・教育支援者（番号４～７）
番号５（準学士課程、専攻科課程において、一般及び専門の教員並びに教育支援者が適切に配置されているか。）
発表者：教務主事

3．学習環境及び学生支援（番号８～１７）
番号９（学生のニーズに対応したＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。）　**発表者：総務主事**
番号１２（学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。）
発表者：教務主事
番号１６（課外活動に対する支援体制が、適切に機能しているか。）
発表者：学生主事

4．準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果（番号１８～２７）
番号１９（教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。）
番号２０（教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。）
発表者：教務主事

5．専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果（番号２８～３７）
番号３７（修了後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。）
発表者：専攻科長

6．アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ（番号３８～４３）
番号４０（受検者数増加対策は効果的に行われているか。）
発表者：入試広報室長

7．研究活動の状況（番号４４～４６）
番号４５（研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。）
発表者：研究主事

8．地域貢献活動等の状況（番号４７～４９）
番号４７（地域貢献活動が適切に定められ、計画的に実施されているか。）
番号４８（地域貢献活動の目的等に沿った成果が得られているか。）
発表者：総務主事

9．財務及び管理運営と情報公開（番号５０～５８）
番号５２（適切に予算が執行され、その結果が公表されているか。）
発表者：事務部長

資料No.3 説明資料

第19回長野工業高等専門学校参与会資料
令和5年2月14日（火）10:00～12:00

令和４年度 参与会

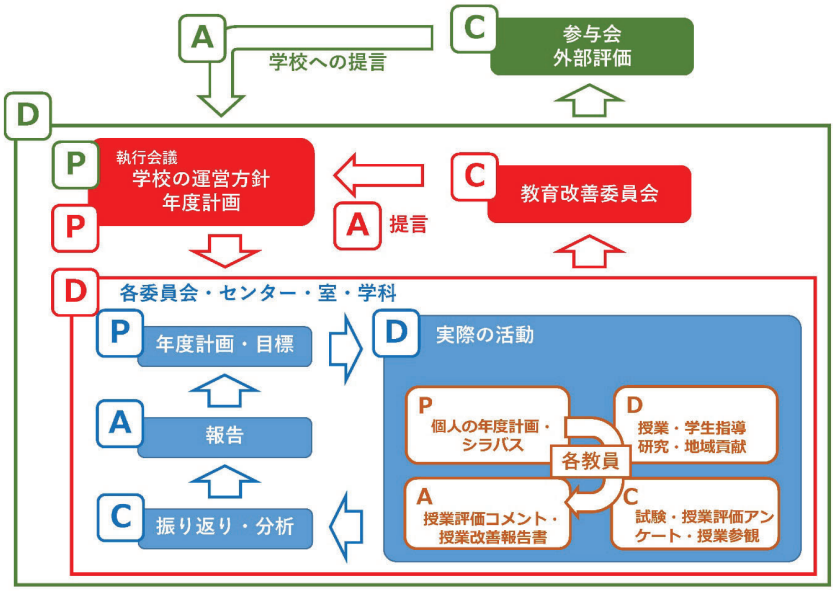
令和５年２月１４日

国立高専機構　長野工業高等専門学校

大項目１　教育の内部質保証　自己点検評価　【番号1】

6つの点検・改善システムの実施をし、結果を公表

1. 自己点検評価項目による点検システム
2. 年度計画項目による点検システム
3. 三つの方針の点検・改善システム
4. 各委員会の重点項目の点検システム
5. 授業改善システム
6. 学生への支援体制点検システム



学校全体の質保証のための点検・改善システムのPDCAサイクル

出典：教育の質保証のための各種点検・改善システムに関する申合せ

大項目２　組織及び教員・教育支援者　教員等の配置【番号5】

教職員数

※（）書き　うち女性数

（令和４年５月１日現在）

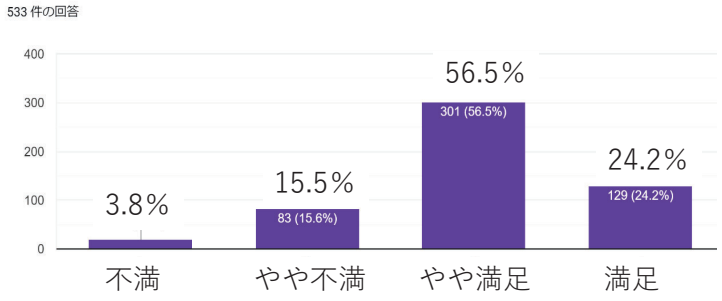
区分 / 所属		職位 校長	教授	准教授	講師	助教	嘱託教授	職員	計
校　長		1							1 (0)
工学科	情報エレクトロニクス系		10	6 (1)	1 (1)	3 (1)	1		21 (3)
	機械ロボティクス系		6	11 (1)	1				18 (1)
	都市デザイン系		6 (1)	3		1	1		11 (1)
	リベラルアーツ教育院		11	10 (4)	1	1 (1)	2		25 (5)
事務部								37 (17)	37 (17)
技術支援部								15 (1)	15 (1)
合　計		1	33 (1)	30 (6)	3 (1)	5 (2)	4	52 (18)	128 (28)

出典：2022 学校要覧

大項目３　学習環境及び学生支援　学習環境【番号9】

■学生に対する満足度に関するアンケート調査項目

【設問2】　本校のICT環境について満足していますか？



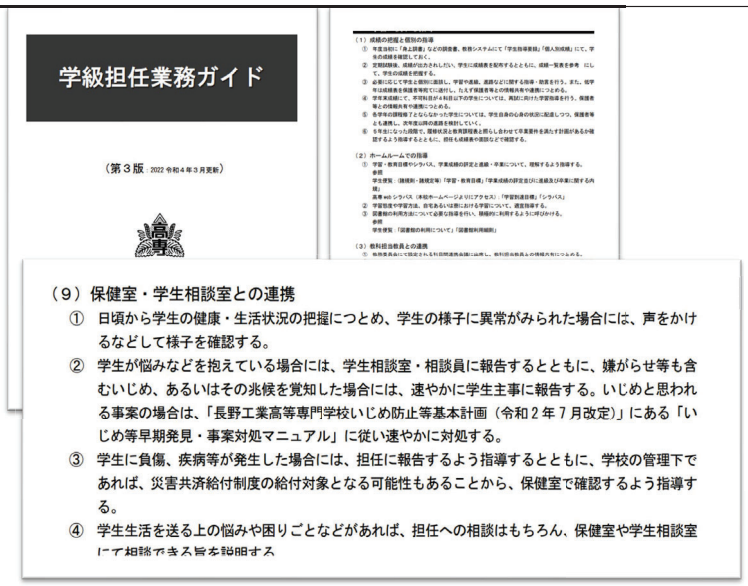
【設問2の自由記述】
- 校内Wi-Fiに繋げるPCを一人二台にしてほしい
- タブレット端末も学校の無線LANに接続したい
- ネットワークの通信状況が不安定
- Teamsによるオンライン授業が途切れる
- 教室のプロジェクターが暗いため見づらい

■十分なセキュリティ管理
- パスワードポリシーの遵守
- 多要素認証の実施
- ウィルス対策ソフトの利用
- ネットワーク接続を申請許可制（接続するにはMACアドレスの登録が必要）
- 認証方式をIEEE802.1x認証としてセキュアなネットワーク接続環境

■令和3年度以後の入学生はBYOD-PC（学生所有のPC）を授業で利用

出典：令和３年度　学生に対する満足度に関するアンケート調査実施結果
長野高専　情報システム関連　FAQ（学生向け）　等

大項目３　学習環境及び学生支援　学生支援【番号12(その1)】


学級担任業務ガイド

（第３版：2022 令和４年３月更新）

（９）保健室・学生相談室との連携

① 日頃から学生の健康・生活状況の把握につとめ、学生の様子に異常がみられた場合には、声をかけるなどして様子を確認する。

② 学生が悩みなどを抱えている場合には、学生相談室・相談員に報告するとともに、嫌がらせ等も含むいじめ、あるいはその兆候を覚知した場合には、速やかに学生主事に報告する。いじめと思われる事案の場合は、「長野工業高等専門学校いじめ防止等基本計画（令和２年７月改定）」にある「いじめ等早期発見・事案対処マニュアル」に従い速やかに対処する。

③ 学生に負傷、疾病等が発生した場合には、担任に報告するよう指導するとともに、学校の管理下であれば、災害共済給付制度の給付対象となる可能性もあることから、保健室で確認するよう指導する。

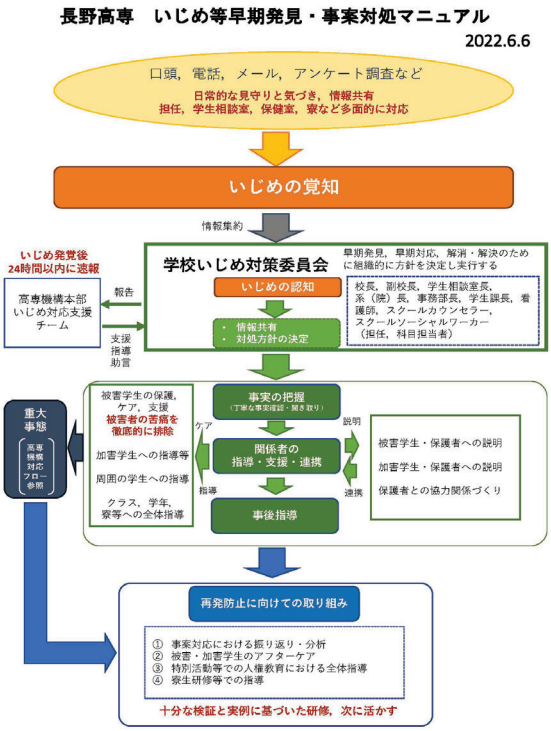
④ 学生生活を送る上の悩みや困りごとなどがあれば、担任への相談はもちろん、保健室や学生相談室にて相談できる旨を説明する

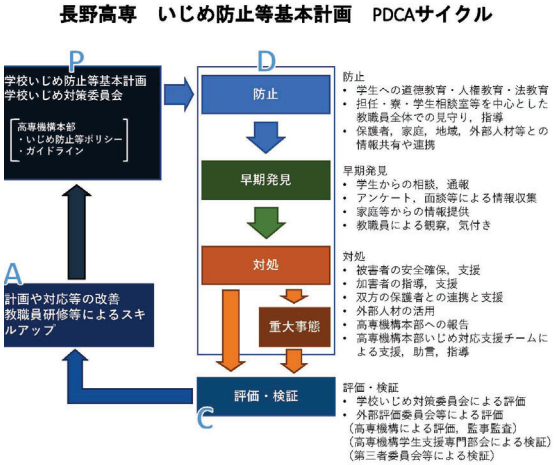
2022年度相談件数及び相談形態（のべ件数・

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
学生	19	20	27	37	7	8
保護者		1	4		1	2
保護者(電話)		1	7	4	1	1
保護者(同席)	2	2	1	3	2	1
職員	3		5	3		
合計(件)	24	24	44	47	11	12

出典：学級担任業務ガイド（第3版・2022年3月），学生相談室報告（2022年10月運営会議）

大項目３　学習環境及び学生支援　学生支援【番号12(その2)】





大項目３　学習環境及び学生支援　学生支援【番号16】

課外活動に対する支援体制が、適切に機能しているか。

支援体制

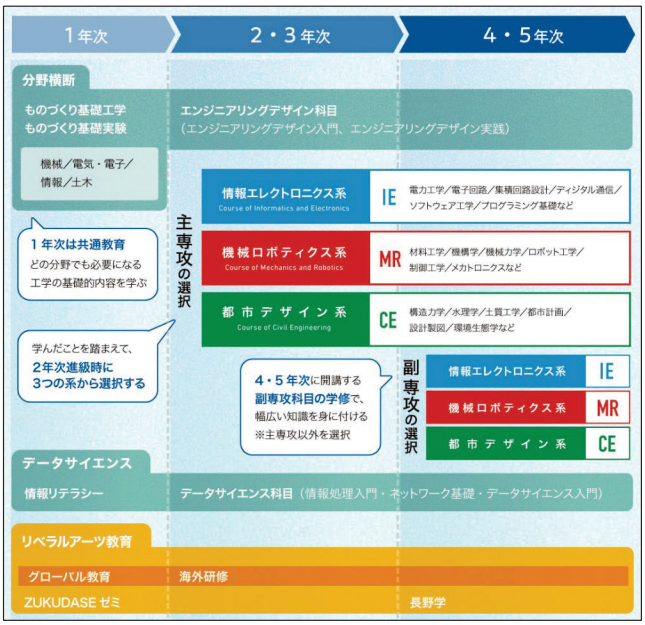
- 部同好会活動の指導に関するガイドライン
- 課外活動指導員マニュアル
- 総合型地域スポーツクラブとの包括連携協定
- 卒業生などと外部指導者契約

業務負担軽減

- 高専機構から通知（平成31年3月）
  →課外活動指導員の雇用
- 団体結成願（申請）の許可基準
- 部同好会活動の継続許可基準
- 運動系：18（-1）、文化系：13（-1）、同好会：11（-11）
  ※（　）内数字　2020-21年度に解散休会
- 新規：e-sports、競技麻雀、サイバーセキュリティーなど

大項目４　準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果

教育課程の編成【番号19】



授業形態・学習指導法【番号20】

出典：長野高専ホームページ

大項目５　専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

学習・教育の成果　【番号37】

表　過去５年間の学位取得状況と進路決定状況

	最終学年在籍数	学位取得者数※1（学位授与機構）	学位取得者数※2（豊橋技術科学大学）	学位取得率(%)	就職者数	進学者数	進路決定率(%)
令和3年度	27	25	2	100.0	21	6	100.0
令和2年度	23	22	–	95.7	18	4	100.0
令和元年度	30	30	–	100.0	25	5	100.0
平成30年度	34	33	–	97.1	28	5	100.0
平成29年度	27	26	–	96.3	21	5	100.0

※1:大学改革支援・学位授与機構から授与、※2：豊橋技術科学大学から授与（連携教育プログラム生）

出典：学校要覧2018～2022、特例の適用認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査に係る基本データ

大項目６　アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ　準学士課程の学生の受け入れ【番号40】

本校主催のイベント

イベント名	参加予定者	参加者数
一日体験入学（事前申込み制）	中学3年生・保護者 中学校教諭	生徒 423名、保護者 346名、教諭 6名 **合計　775名**
オンライン進学説明会（事前申込み制）	中学校教員	**教諭　84名**
秋の学校説明会（事前申込み制）	中学3年生・保護者 中学校教諭	生徒　46名、保護者 44名 **合計　90名**

中学校からの依頼

イベント名	参加予定者	参加者数
学校説明会（中学校からの依頼）	中学3年生	3中学：総計　**生徒 445名**、教諭 20名
学校見学（中学校または個人からの申込）	中学3年生	7件：総計　**生徒 9名**、保護者 8名
先輩の話を聞く会（中学校からの依頼）	中学3年生	7件：生徒　およそ　**500名**

出典：入試広報室　会議資料より抜粋

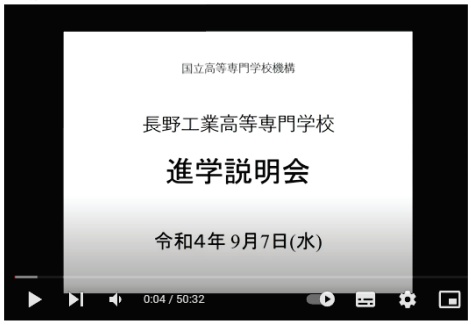
大項目６　アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ　準学士課程の学生の受け入れ【番号40】

令和5　年度入学者選抜のための「進学説明会」

進路指導担当中学校教諭を対象とした説明会

8月の説明会

日　程	会　場	対象地区
08月25日(木) 15:00～16:30	※2回とも終了しました。当日の録画をこちらからご覧頂けます。 ＜日時(2回開催)＞ 令和4年8月25日(木) 15時00分～16時30分 令和4年9月7日(水) 15時00分～16時30分	全県(オンライン)



20220907長野高専進学説明会

中学校の先生への進路説明会　（動画配信）

サイエンス・ツアー　一覧

(1)ふしぎ？科学マジック	その他	科学	実施回数:残り1回
(2)障がい児・者向けふしぎ？科学マジック	その他	科学	実施回数:残り4回
(3)びっくり！超低温実験ショー	その他	科学	実施回数:残り1回
(4)障がい児・者向けびっくり！超低温実験ショー	その他	科学	実施回数:残り4回
(5)クイズやすごろくゲームを通して自然環境を学ぼう！	小学校高学年	技術	実施回数:残り2回
(6)バスタで橋を作ろう	小学校高学年	技術	実施回数:残り2回
(7)太陽光発電を体験しよう	小学校高学年	技術	実施回数:残り3回
(8)電気自動車を作ろう	小学校高学年	技術	今年度終了
(9)風力発電機を作ろう	小学校高学年	技術	実施回数:残り1回
(10)材料の不思議	小学校高学年	科学	実施回数:残り4回
(11)サイバーセキュリティ入門	中学生	技術	実施回数:残り4回
(12)子どもプログラミング教室	小学校高学年	技術	実施回数:残り3回
(13)障がい児・者向けプログラミング体験教室	その他	技術	実施回数:残り4回
(14)マイコンブロックでロボットを動かそう！【特別支援学校等向け】	小学校高学年	技術	実施回数:残り3回
(15)目指せ全国！小学生ロボコン工作教室	親子	科学	実施回数:残り3回
(16)磁気(磁石)と電気の関係【特別支援学校等向け】	中学生	科学	実施回数:残り4回
(17)電話であそぼう	その他	科学	実施回数:残り2回
(18)避難ゲームで水害から命を守る方法を学ぼう！	小学校高学年	科学	今年度終了
(19)離れた場所に電気を送ろう	小学校高学年	技術	実施回数:残り4回

出典：長野高専ホームページ

大項目7　研究活動の状況　研究活動の成果　【番号45】

■外部資金受入状況

名称	令和3年度(2021年度)		令和4年度12月時点	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
共同研究	32	15,991	30	15,029
受託研究	5	3,127	6	2,791
受託事業・補助金他	3	2,249	6	2,711
寄附金(長野高専基金を含む)	135	36,807	46	24,890
合計	175	58,174	88	45,421

■科学研究費補助金交付決定状況

研究種目	令和3年度(2021年度)		令和4年度12月時点	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
基盤研究(A)	0	0	0	0
基盤研究(B)	0	0	0	0
基盤研究(C)	17	20,982	16	13,715
若手研究	5	4,030	4	3,970
奨励研究	0	0	0	0
研究活動スタート支援	0	0	0	0
学術図書	0	0	1	2,340
合計	22	25,012	21	25,025

大項目８　地域貢献活動等の状況

地域貢献活動の計画【番号47】地域貢献活動の成果【番号48】地域貢献活動の改善【番号49】

地域貢献活動の目的

1．蓄積してきた技術開発や研究の成果を地域社会に還元し、地域の発展に資すること
2．産業界, 地方公共団体, コミュニティ, 他の教育機関と連携することにより、社会活動に貢献すること

R3年度の地域貢献活動の実施状況

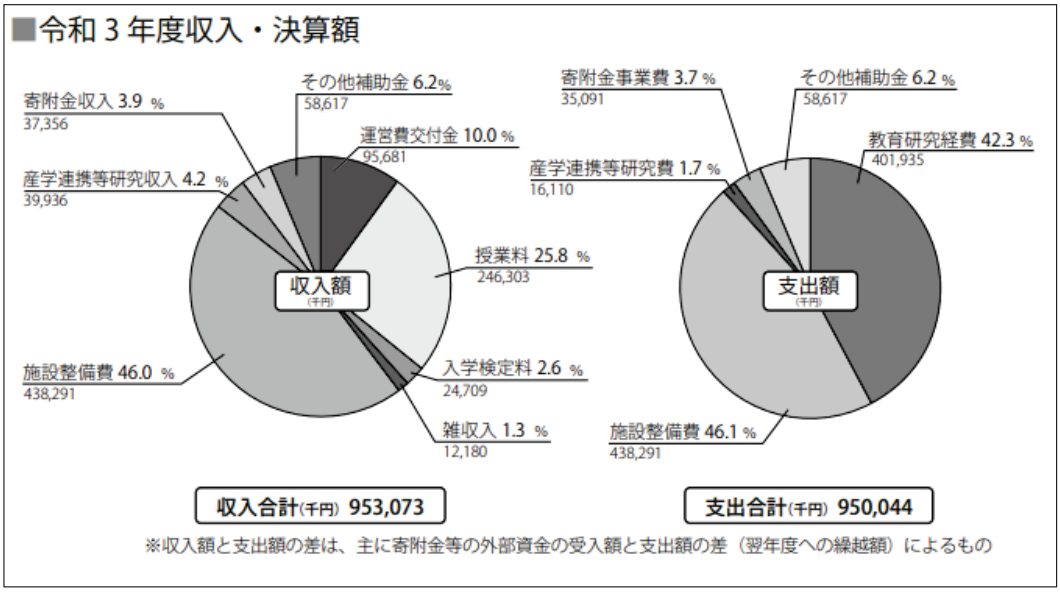
■出前授業　21件を実施（R2年度は8件）
　実施先：小学校11件, 養護学校1件, 公民館3件, 団体6件 ／ 延べ参加者：793名（R2年度は284名）
　テーマ例：子どもプログラミング教室，　風力発電機を作ろう，　目指せ小学生ロボコン！工作教室，
　　防災にかかわる授業，　不思議？科学マジック，　びっくり！超低温実験ショー，　etc
■オンライン公開講座　1件を実施（R2年度は1件）
　テーマ：目指せ小学生ロボコン！工作教室
■産業フェアに1件を出展（R2年度は0件）
■リカレント教育講座等に企画担当者を設置し, 44講座を実施（ R2年度は31講座実施）

※主な地域貢献活動においてアンケート調査を実施し改善に活かしている

出典：長野工業高等専門学校における地域貢献活動等に関する目的・基本方針および目標，令和３年度教育改善報告書等

大項目９　財務および管理運営と情報公開

財務関係【番号52】



出典：2022 学校要覧

大項目１　教育の内部質保証

小項目：自己点検評価

【番号1】（自己評価：５）

- 次の6つの点検・改善システムの実施をし、結果が校内等に公表されている。
  - 自己点検評価項目による点検システム　→　令和4年度より初年度
    →　継続性を見る必要がある
  - 年度計画項目による点検システム　→　令和3年度より２年目
  - DP、CP、APの点検・改善システム　→　令和3年度より２年目
  - 各委員会の重点項目の点検システム　→　新システムは３年目
  - 授業改善システム　→　13 年目
  - 学生への支援体制点検システム
    →　授業アンケート調査は20年目、満足度調査は３年目

【番号2】（自己評価：３）

- 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査
  - 令和元年度に実施したが、回収率15%程度であり、高めることが課題。

大項目１　教育の内部質保証

小項目：３つのポリシー

【番号3】（自己評価：５）

- 本科、専攻科において３つのポリシーが定められ公表されている。
  - 卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）
  - 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）
  - 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）
- 令和３年度の対応
  - 工学科の３つのポリシーの策定
  - ５学科と専攻科のアドミッションポリシーに入学選抜方法を入れる修正
    →今後も社会状況に応じて見直していく。

大項目２　組織及び教員・教育支援者

小項目：学校組織

【番号4】（自己評価：4）

- 教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能している。

大項目２　組織及び教員・教育支援者

小項目： 教員等の配置

【番号5】（自己評価：４）

- 準学士課程においては、一般及び専門の該当分野の教員を各科目担当者として配置し、必要に応じて技術支援部より技術職員を配置している。
- 専攻科課程においては、生産環境システム専攻に機械工学、電気電子工学、土木工学を専門とする教員を、電気情報システム専攻には電気電子工学を専門とする教員を配置した。

→学科再編による変更点を確認し適切に配置していく。

小項目： 教員の評価

【番号6】（自己評価：4）

- 教員の採用や承認は、これらに関する基準に則り行われている。
- 年度当初の業務計画や研究業績一覧等により、教員の教育研究活動に対する評価を実施している。

→必要に応じて基準を見直しながら適切な評価等を継続していく。

大項目２　組織及び教員・教育支援者

小項目： FD活動

【番号7】（自己評価：3）

- FD・SD活動は実施されている。
- 令和3年度は計4回の研修会を実施した。 高等教育機関（特に理工学系）における男女共同参画の現状、教員の教育力向上のための講習やトレーニング、および今後の高専教育で必須となる学生へのケアについて考える機会を持てた。

  8月26日「男女共同参画推進について考えましょう」
  9月7日、10月19 日 「モデル授業、授業アンケート分析」「グループワーク」
  12月17 日　　「これからの長野高専に期待すること」
  3月2 日　　「長野高専の産学連携」

- 改善点

  教育およびその支援等の評価手法が具体的に定められていない。
  → 検討の必要あり

大項目３　学習環境及び学生支援

小項目：学習環境

【番号8】（自己評価：4）

- 学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されている。

【番号9】（自己評価：4）

- 学生のニーズに対応したＩＣＴ環境
  - 令和3年度の1年生よりBYOD PC（学生個人所有PC）を授業に有効活用している。
    → 最新のPC環境を学生が利用
  - 満足度調査「本校のICT環境について満足していますか？」の設問
    → 学生の回答　満足度1：3。8%　満足度2：15。6%　満足度3：56。5%　満足度4：24。2%

【番号10】（自己評価：4）

- 令和3年度の状況

  ・蔵書総数 82、387冊、入館者数 34、100人、退出冊数 5、404冊、帯出者数 2、766人
  ・コロナ感染予防のため長野県発表の感染レベルに応じて開閉館時間を変更

大項目３　学習環境及び学生支援

小項目：学生支援

【番号11】（自己評価：4）

- 準学士課程においては、新入生、留学生、編入学生に対しては、授業開始までに、ガイダンスを実施している。
- 専攻科課程においては、1年生は入学式当日に、2年生については別途機会を設けてガイダンスを実施した。2年生については学位申請ガイダンスも実施している。

→様々な変更点を含め、適切なガイダンスの実施を継続する。

大項目３　学習環境及び学生支援

小項目：学生支援

【番号12】（自己評価：4）

- 準学士課程においては、学級担任制により、学生の相談・助言を行っている。
- メール目安箱等、学生の意見や苦情を受けるシステムが構築され、対応は遅延なく行われていいる。
- 専攻科課程については、専攻長および専攻科長が相談・助言を行っている。

→学級担任ガイドブックの確認や見直しを継続して進める。

→学校としての体制を、学生に周知する仕組みを検討する。

大項目３　学習環境及び学生支援

小項目：学生支援

【番号13】（自己評価：4）

- 入学前に保健調査票による保護者からの申し出等により特別な支援を必要とする学生を把握し、入学時より支援可能な体制を整えている。
- 留学生(3・4学年)に対してはチューターを選考し、学習と生活の支援を計画通りに実施している。また、留学生の生活支援として、寮務委員と留学生の近況の情報を共有することとし連携体制を整えた。
- 専攻科課程については、専攻長および専攻科長が学習支援や生活支援を行っている。

→学生の状況に応じて支援を行っている。今後も継続する

大項目３　学習環境及び学生支援

小項目：学生支援

【番号14】（自己評価：４）

- 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言等を行う体制が機能しているか。

「学級担任業務ガイド」をつくり、社会状況に応じた指導・支援を行っている。さらに、個別の問題については学生相談室と連携して支援を行なっている。

【番号15】（自己評価：４）

- 進路指導およびキャリア教育の体制が機能しているか。

「学生向け進路選択ガイド」をつくり、状況に応じた指導・支援を行っている。令和4年度から進路支援室を新設し、キャリア講演会、進路講演会、卒業生講演会、進路説明会を実施している。

【番号16】（自己評価：４）

- 課外活動に対する支援体制が、適切に機能しているか。

ガイドラインやマニュアルをつくり、適切な支援を行うとともに、校内手続きの電子化・スマート化をはかっている。「団体結成願（申請）の許可基準について」、「部・同好会活動の継続許可基準について」等により、団体数や活動の質をコントロールし、また活動を支える教職員の支援体制が適切に機能するよう努めている。

大項目３　学習環境及び学生支援

小項目：学生支援

【番号17】（自己評価：4）

- 勉強会についてはコロナ禍であるため、本年度は開催を中止した。

→コロナ過であっても勉強会を実施できるよう感染対策を含めて検討する。

- 満足度調査は11/30締切で実施中である。
- 寮生会との懇談会は月に1回程度実施している。

大項目４　準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果

小項目：教育課程の編成

【番号18】（自己評価：4）

- カリキュラムポリシーに基づき、理数系基礎科目及び人文社会系の教養科目は低学年を中心に、工学系の科目は高学年を中心に体系的に配置している。

→学科再編後のカリキュラムについて、さらに整備を進める。

【番号19】（自己評価：4）

- 実践的な問題解決型学習、アクティブラーニング、実験実習、卒業研究などにより、課題の発見能力、解決能力、及び論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成している。
- 異文化理解、コミュニケーション力を育成する授業科目を編成している。

→学科再編により対応させて配置したカリキュラムの確認を継続する。

大項目４　準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果

小項目：授業形態、学習指導法

【番号20】（自己評価：4）

- 主体的な学習活動に向けた教材の利用や、新たなオンライン教材の活用、遠隔授業でも利用できるカメラやPCの設置など、様々な工夫を行っている。

→新たな教育手法とあわせて、教育改善を継続して進める。

【番号21】（自己評価：3）

- カリキュラムポリシーに沿って設定された到達目標を記したシラバスを作成し、活用している。

→再編によるWebシラバスの問題点にも対応しながら改善を進める。

大項目４　準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果

小項目：成績評価・進級及び卒業判定

【番号22】（自己評価：4）

- シラバスにおいて、成績評価および単位認定の基準を明記している。
- 教育課程表において、進級および卒業認定の基準を明記している。

→必要に応じて改善を進める。

【番号23】（自己評価：4）

- 各教員により成績評価が行われ、教育改善員会によりエビデンスの確認を行っている。
- 成績評価がシラバス記載の通りに実施されているかの自己点検、および教育改善委員会におけるチェック体制と整えられ、適切に実施されている。

→点検がより効果的に運用できる体制を検討する。

【番号24】（自己評価：5）

- 卒業、進級判定のための資料を作成し、教員会議において確認している。

→必要に応じて改善を進める。

大項目４　準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果

小項目：学習・教育の成果

【番号25】（自己評価：4）

- 各科目の平均点、卒業研究発表、学生表彰により、学習・教育の成果を確認している。

→必要に応じて改善を進める。

【番号26】（自己評価：3）

- 卒業時の学習・教育目標達成度自己評価、ならびに卒業生企業等アンケートにより確認している。

→回答率の改善に向けて、新設した教学IR室を中心にさらに体制を整える。

【番号27】（自己評価：4）

- 進路指導報告書の就職先および進学先から、学習・教育目標の成果が認められる。

→必要に応じて改善を進める。

大項目５　専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

小項目：教育課程の編成

【番号28】（自己評価：4）

- 融合複合・新領域で教育課程を編成しているため、系統図上は本科と結ばれていないが、本科で基礎的なことを学び、専攻科で応用的なことが学べるよう教育課程を編成している。

【番号29】（自己評価：4）

- 授業科目の内容については、シラバス作成時に内容の検討を依頼している。また、社会からの要請に対応し、創造力・実践力を育む科目として「機能デザイン」、「学外実習」、「実践工学演習」を実施、異文化や地域の文化を理解する科目として「英語特論Ⅰ・Ⅱ」を実施している。

大項目５　専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

小項目：授業形態、学習指導法

【番号30】（自己評価：４）

- ICT機器、遠隔授業、授業のアーカイブ作成など工夫している。

【番号31】（自己評価：４）

- カリキュラム・ポリシーに沿ってシラバスを作成している。また、授業開始時にシラバスの内容を説明するとともに、授業実施のスケジュールの説明等に活用している。
- 大学改革支援・学位授与機構の認定を受けた個表を持つ指導教員が研究指導を行うとともに、研究成果を特別研究発表会において発表させている。

大項目５　専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

小項目：成績評価・修了判定

【番号32】（自己評価：５）

- 成績評価および単位認定についてはシラバスを使って説明している。修了認定については年度当初のガイダンスで説明している。

【番号33】（自己評価：４）

- エビデンスの提出を受け、成績評価が適切に行われてているか教育改善委員会で点検している。

【番号34】（自己評価：５）

- 専攻科運営委員会および教員会議で確認した後、執行会議で修了判定を行っている。

大項目５　専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

小項目：学習・教育の成果

【番号35】（自己評価：４）

- ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められ、27名全員の専攻科修了を認めた。また、JABEEプログラムは25名、連携教育プログラムは2名の修了を認めた。

【番号36】（自己評価：４）

- ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果は、修了時の学生面談や達成度評価確認表等で確認した。

【番号37】（自己評価：４）

- 大学改革支援・学位授与機構に学位申請した25名全員の学士（工学）が授与された。また、豊橋技術科学大学との連携プログラム生2名は同大から学士（工学）が授与された。
- 進路は全員就職または進学が決定しており、学習・教育の成果を確認した。

大項目６　アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ

小項目：準学士課程の学生の受け入れ

【番号38】（自己評価：3）

- 科学技術への関心を持つことを出願資格に明記し、調査書および面接により推薦選抜を実施している。
- 数学、理科、英語に傾斜配点を行った学力検査と調査書により学力選抜を実施している。

→アドミッションポリシーに沿って選抜を実施しているが、合致する形に向けては改善の余地がある。

【番号39】（自己評価：3）

- 教学IR室を新設し、入学者の追跡調査ならびに選抜方法の改善への検討をしている。

→今年度、教学IR室を新設し、これまで以上に検証を進めることとしている。

大項目６　アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ

小項目：準学士課程の学生の受け入れ

【番号40】（自己評価：4）

- 一日体験入学を実施し、中学生は学科再編を行った工学科のすべての系での体験授業に参加した。
- 中学校での対面での説明会、およびオンラインでの説明会を実施し、動画をホームページでも公開している。
- 出前授業の実施は、長野高専を多くの小中学生に知ってもらう機会となっている。

→新たな手法の検討も進める。

大項目６　アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ

小項目：専攻科課程の学生の受け入れ

【番号41】（自己評価：４）

- アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学者選抜方法が適切に実施している。

【番号42】（自己評価：３）

- 過去5年間における退学者が1名であり、アドミッション・ポリシーに沿った選抜ができている。

＜改善点＞入学者選抜の改善に役立てた具体例はない。今後検証する。

【番号43】（自己評価：３）

- 12月に本科4年生に対して進学説明会を実施している。
- 過去5年間の定員充足率は、生産環境システム専攻が140。0%、電気情報システム専攻が142。5%と多めである。

＜改善点＞大学改革支援・学位授与機構からは130%程度となるよう指導されており、改善したい。

大項目7　研究活動の状況

小項目：研究体制と支援体制

【番号44】（自己評価：4）

- 特別経費配分による教育研究活動支援を実施。
- 科学研究費補助金申請書の添削支援を実施。
- リサーチアドミニストレータによる研究活動支援や企業との共同研究マッチングを実施。

小項目：研究活動の成果

【番号45】（自己評価：3）

- シーズ集の発行および技術振興会会員向け配布や産業展等での配布および説明を実施。
- 研究業績の収集および公開等を通じて研究活動の状況把握を実施。

小項目：研究活動の改善

【番号46】（自己評価：3）

- 研究推進委員会を発足させ、研究業績等の収集や知財管理、外部資金獲得支援や紀要発行体制を整備した。
- 研究倫理委員会を発足させ、研究倫理審査等の体制を整備した。

大項目８　地域貢献活動等の状況

小項目：地域貢献活動の計画

【番号47】（自己評価：5）

・地域貢献活動等の基本方針は以下のとおりである。

（1）技術相談、技術供与
（2）生涯学習への支援活動
（3）初中等教育機関等への支援および低年齢層からの理工系教育の普及活動
（4）行政機関等との連携による協力、支援

・上記(1)～(4)の項目について年度ごとに計画を立て、以下に示す具体的な活動を行っている。

① 地域共同テクノセンターを窓口とする技術相談、技術供与
② 社会人学び直しを目的とした講座、各種技術セミナー、技術研究会の実施
③ 科学イベントの開催および県内で開催される各イベントへの協力
④ 公開講座および地域の小中学校等への出前授業の実施
⑤ 長野市をはじめとする県内各自治体、各種団体等との包括協定または連携協定に基づく技術指導、委員会および審議会等への委員派遣

大項目８　地域貢献活動等の状況

小項目：地域貢献活動の成果
【番号48】（自己評価：3）

地域貢献活動の目的

① 小中学生にPRし、入試志願者数を上げる。特に女子学生数を増加させる。
志願者数　H30年度:361名，H31年度: 250名，　R2年度: 340名，R3年度: 280名，R4年度: 295名
女子入学者数　H30年度:38名，H31年度: 30名，　R2年度: 42名，R3年度: 38名，R4年度: 38名
→　増加に結びつきにくいが、現状維持はされている。

② 地域、地域企業にPRし、共同研究（産業フェアの利用）や求人に繋げる。
リカレント教育講座等に企画担当者を設置し，講座内容の充実や改善を行った。

大項目８　地域貢献活動等の状況

小項目：地域貢献活動の改善
【番号49】（自己評価：4）

- 地域貢献活動の実施状況や問題点を把握し、改善を図っている。
  - サイエンスツアー
    - 実施件数：合計 21 件、参加者793 名
  - サイエンスライブ
    - 実施テーマ 1 件
  - 科学イベント関係
    - 「 まつもと広域ものづくりフェア」　3 テーマ教員 4 人が参加
    - 参加予定だった「体験と学びの環境博信州環境フェア」、「ながの子ども・子育てフェスティバル」、「長野高専キッズサイエンス」は中止等で参加しなかった。
  - 産業フェア
    - 「産業フェア in 信州 2021 」にリアル出展、「上田地域産業展 2021 」にオンライン出展
    - 「しんきんビジネスフェア」、「ぞっこんさく市、「諏訪圏工業メッセ」は中止のため不参加
  - NAGANO SDGs PROJECT に 1 件参加した。
  - 上記の主な活動においてアンケート調査を行い改善に活かしている

大項目９　財務および管理運営と情報公開

小項目：財務関係

【番号50】（自己評価：４）

- 適切な収支に係る計画等が策定され、学内に明示されている。

【番号51】（自己評価：４）

- 適切に予算が配分され、その執行状況の確認が行われている。

【番号52】（自己評価：４）

- 適切に予算が執行され、その結果が公表されている。

大項目９　財務および管理運営と情報公開

小項目：管理運営

【番号53】（自己評価：４）

- 各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動している。

【番号54】（自己評価：４）

- 情報セキュリティを含む危機管理等の安全管理体制が整備されている。

【番号55】（自己評価：４）

- 管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組が組織的に行われている。

大項目９　財務および管理運営と情報公開

小項目：管理運営

【番号56】（自己評価：４）

- 外部資金公募の周知や科研申請支援として添削支援を実施した。

【番号57】（自己評価：４）

- 準学士課程4年次では、夏季休業中に様々な企業・機関において実務訓練を実施した。
- 専攻科課程においては、学外実習では企業等で540時間実習を行った。また、実践工学演習では企業等に勤務する方による講演を実施した。

大項目９　財務及び管理運営と情報公開

小項目：情報公開

【番号58】（自己評価：4）

- 教育情報（学校教育法施行規則の事項を含む）が公表されているか。
  - https://www。nagano-nct。ac。jp/guide/educational/index。phpに公表

資料No.5 評価記入用シート

第19回長野工業高等専門学校参与会資料
令和5年2月14日（火）10:00～12:00

令和４年度自己点検・評価表　評価記入シート

御　名　前

所属・職名

＜評価点および目安＞

評価点	目安
5	十二分に実施している。
4	十分に実施している。
3	ほぼ実施している。
2	十分に実施していない。
1	実施できていない。

※　返信用封筒により令和5年2月28日までにご返信をお願いいたします。

大項目	評価点 （５から１）	コメント
１．教育の内部質保証		
２．組織及び教員・教育支援者		
３．学習環境及び学生支援		
４．準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果		
５．専攻科課程の 教育課程・教育方法・学習成果		

大項目	評価点 （５から１）	コメント
６．アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ		
７．研究活動の状況		
８．地域貢献活動等の状況		
９．財務及び管理運営と情報公開		